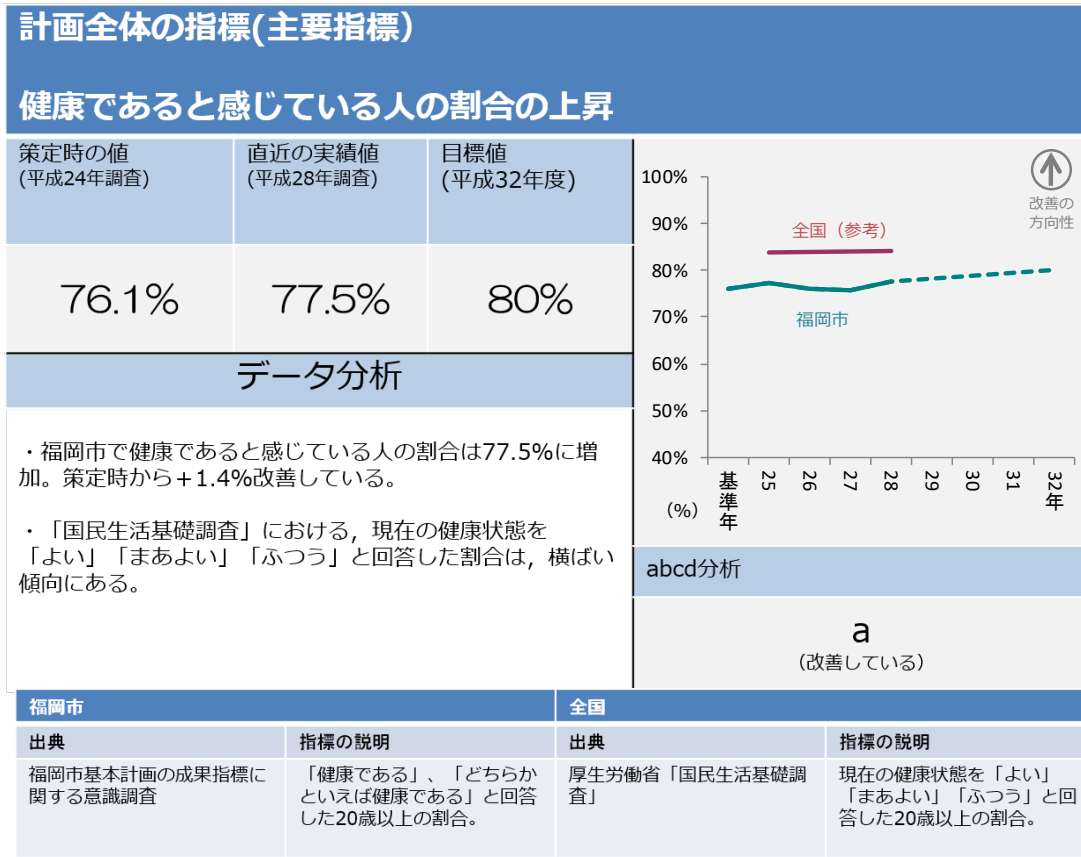
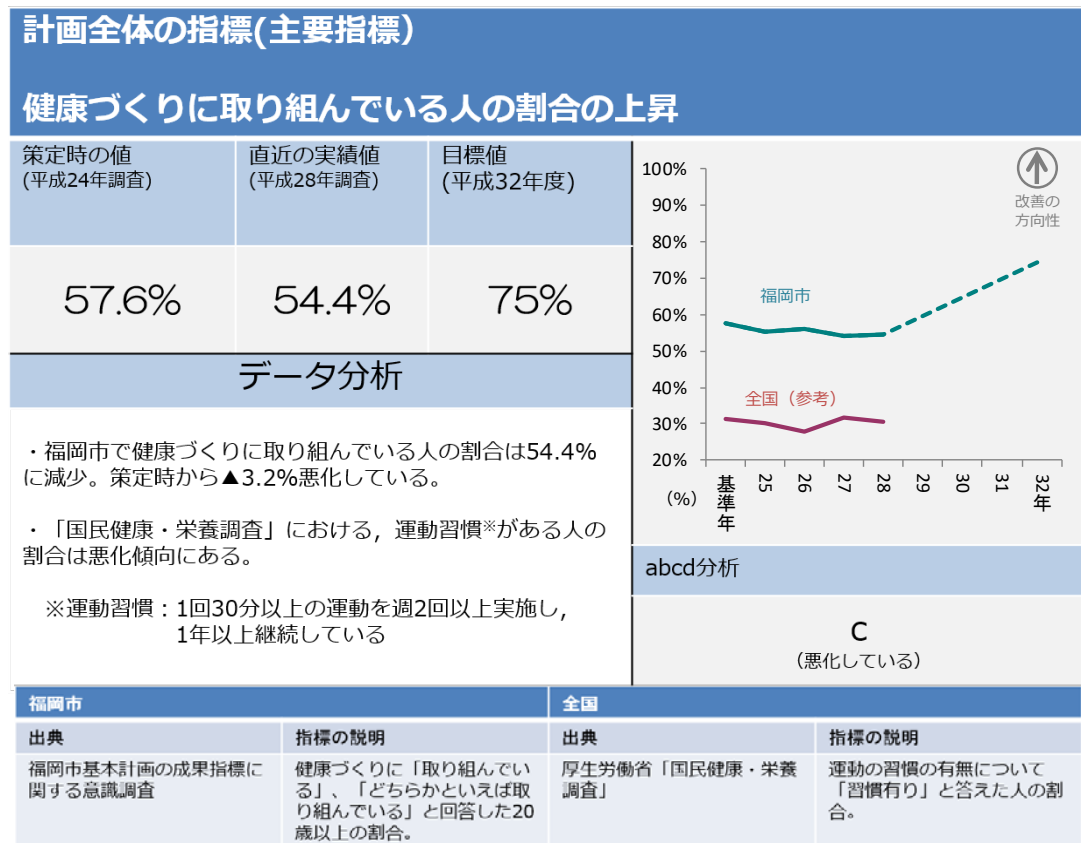


指標分析シート

1. 主要指標の分析



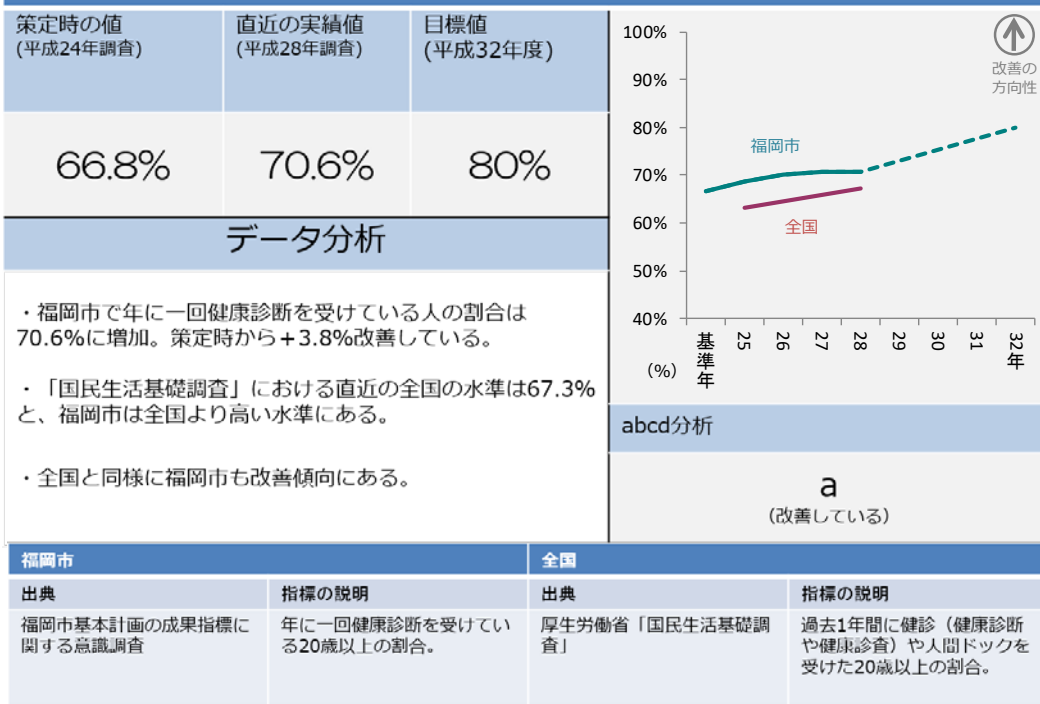
注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移



注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移

計画全体の指標(主要指標)

年に一回健康診断を受けている人の割合の上昇



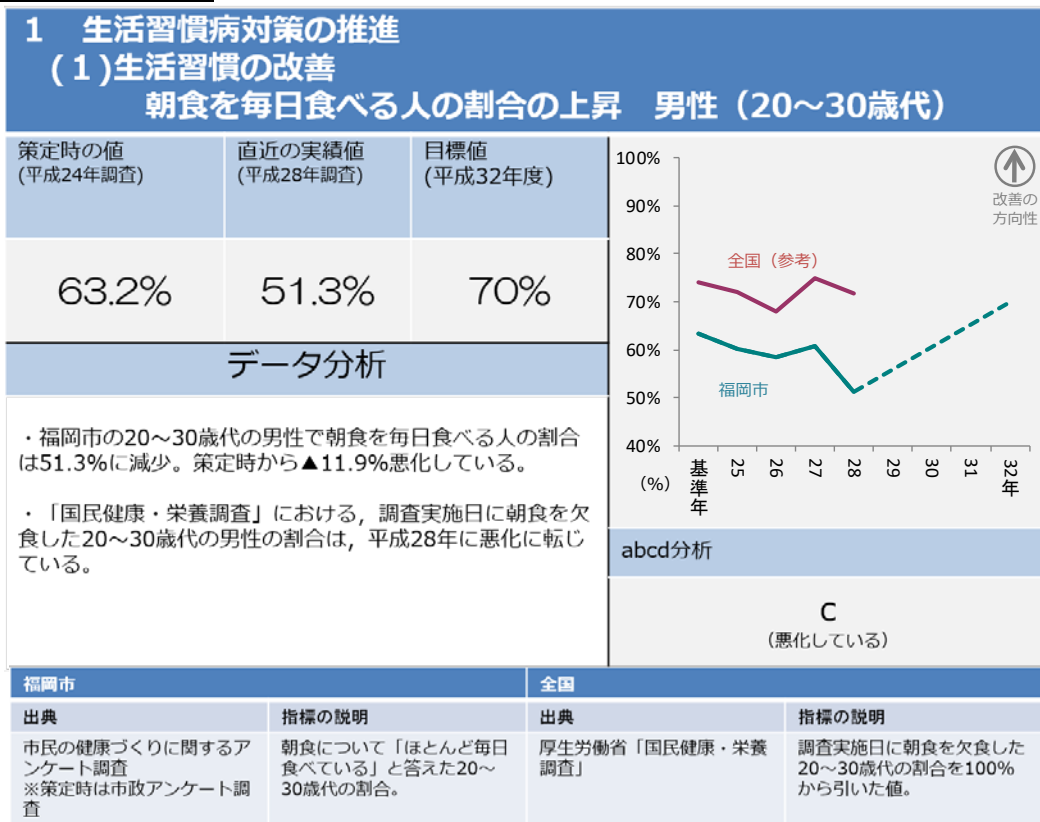
注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移

2. 分野別の分析

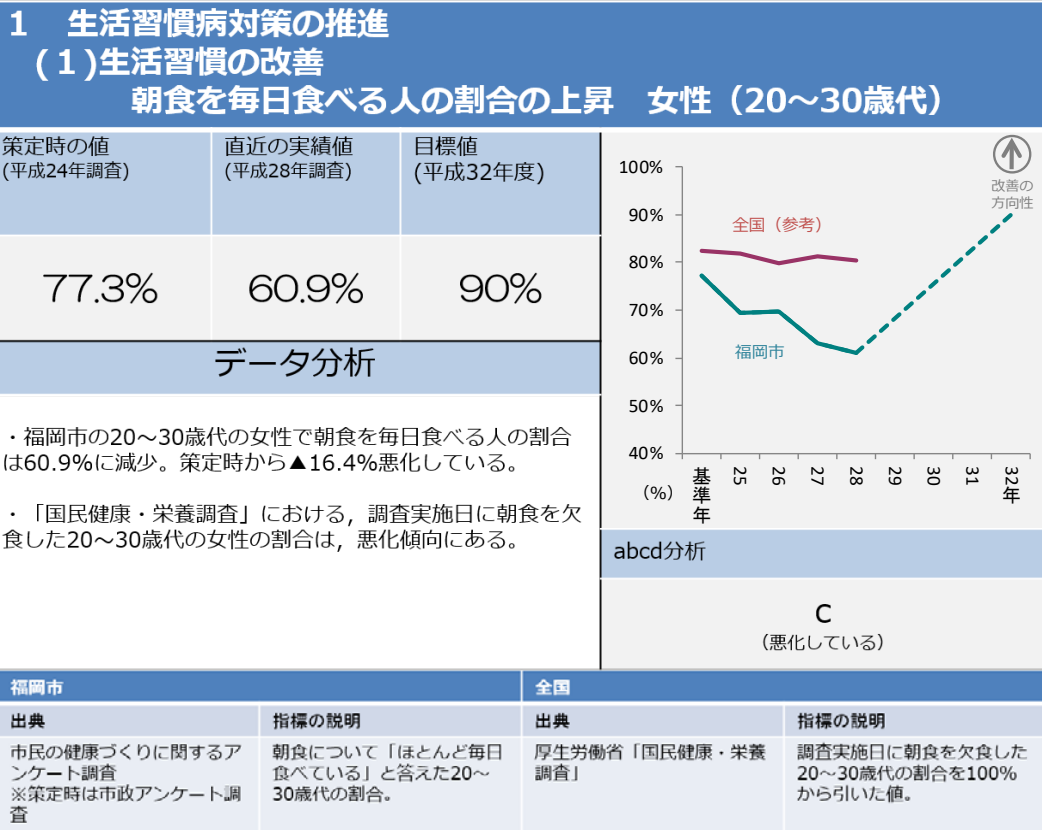
1 生活習慣病対策の推進

(1)生活習慣の改善

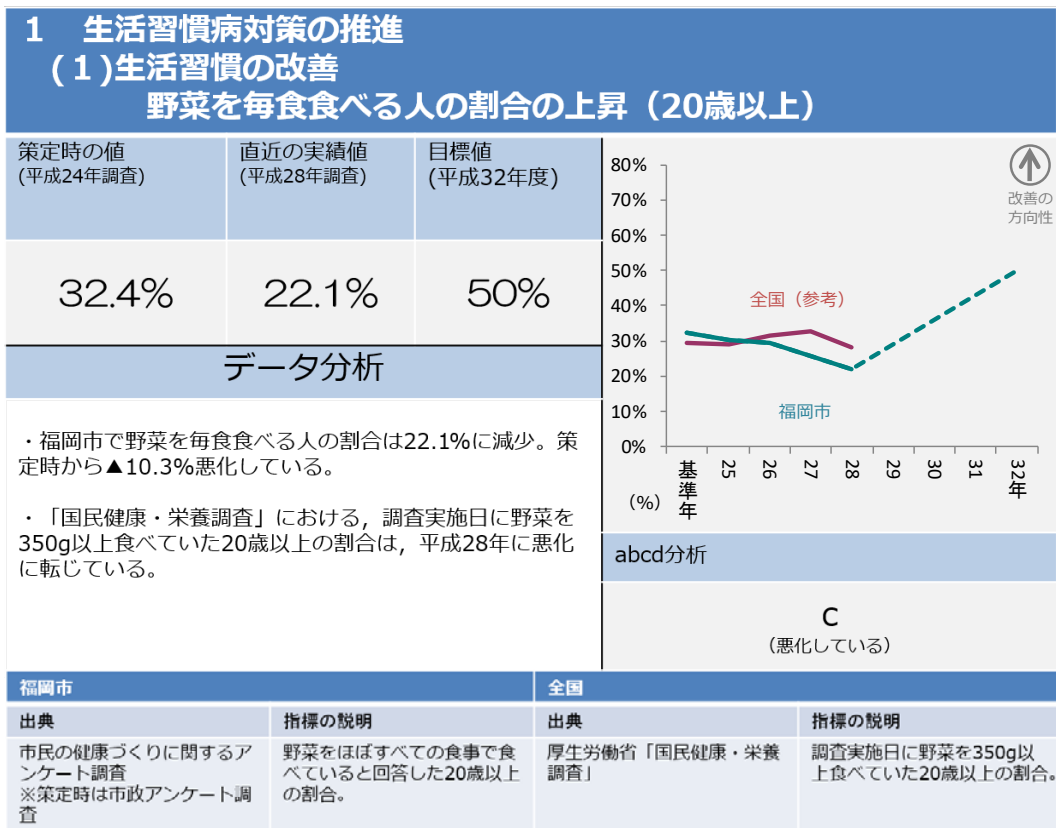
①栄養・食生活



注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移



注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移

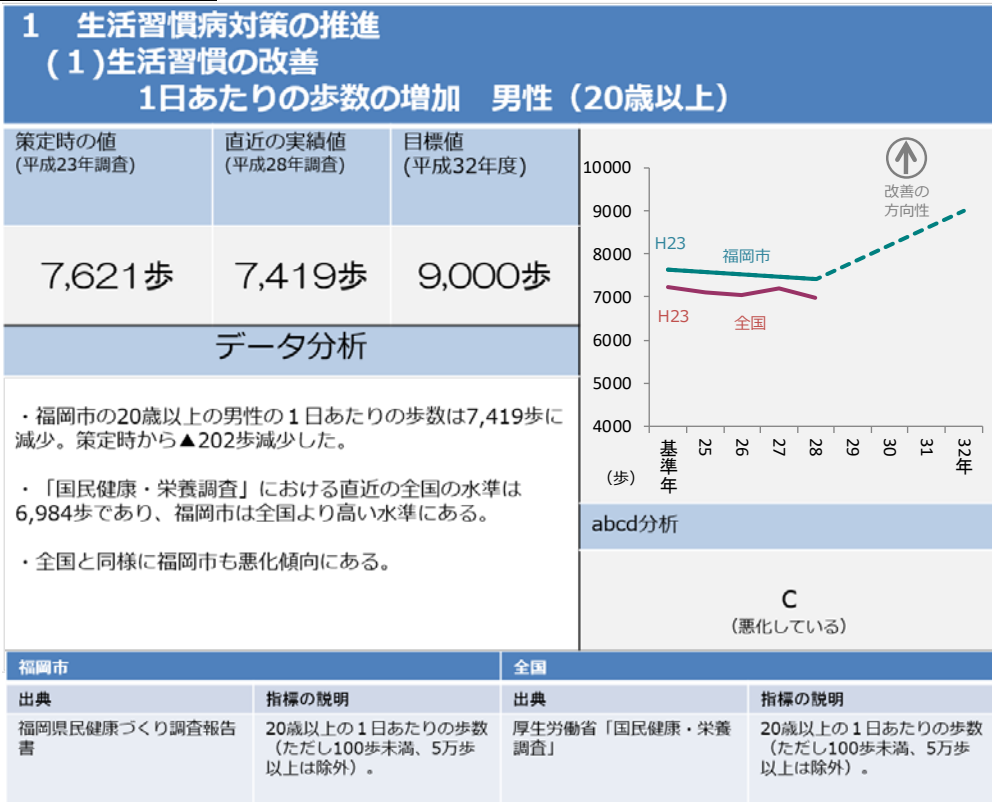


注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移

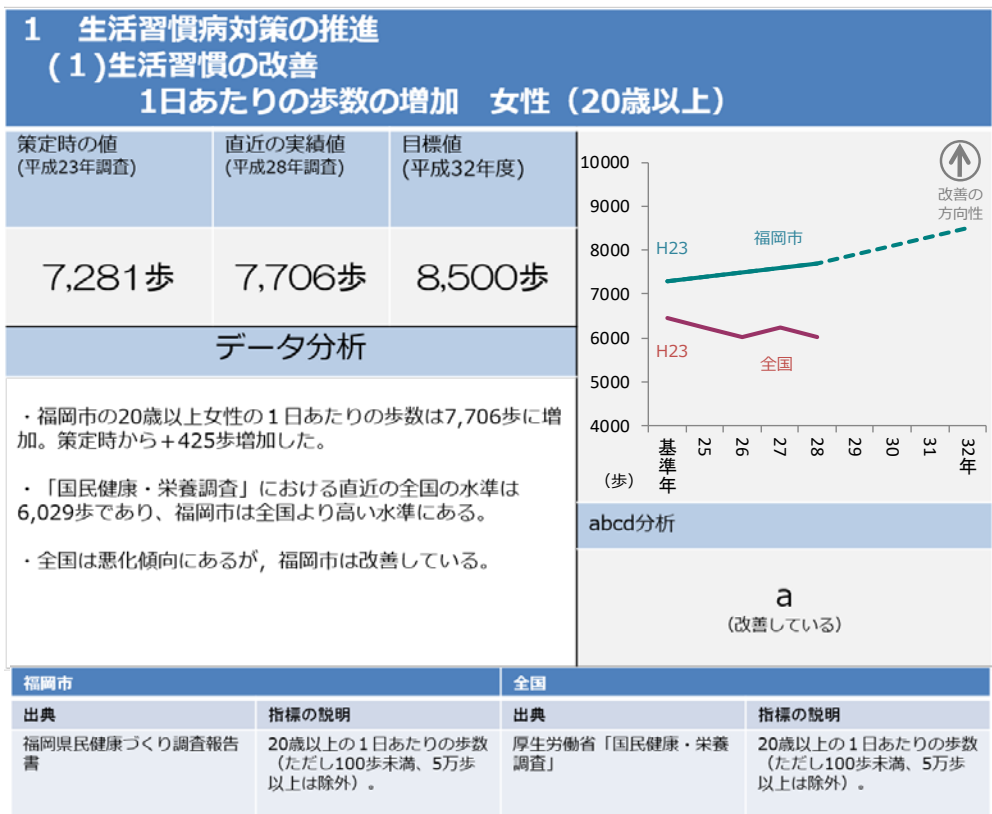
【今後の課題】

- 「朝食を食べる」「野菜をとる」という目標達成へ向けた直接的な働きかけを行う必要がある。

②運動・身体活動



注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移



注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移

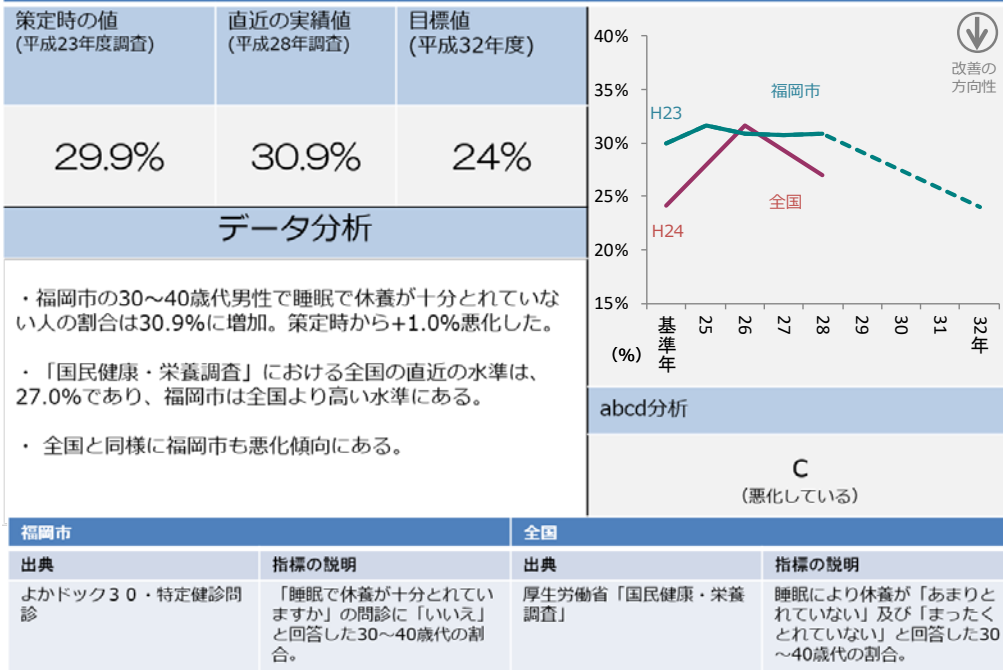
【今後の課題】

○健康づくりの関心が低い層(特に若い世代)に対し、ウォーキングの普及を推進する必要がある。

1 生活習慣病対策の推進

(1)生活習慣の改善

睡眠で休養が十分とれていない人の割合の減少 男性 (30~40歳代)

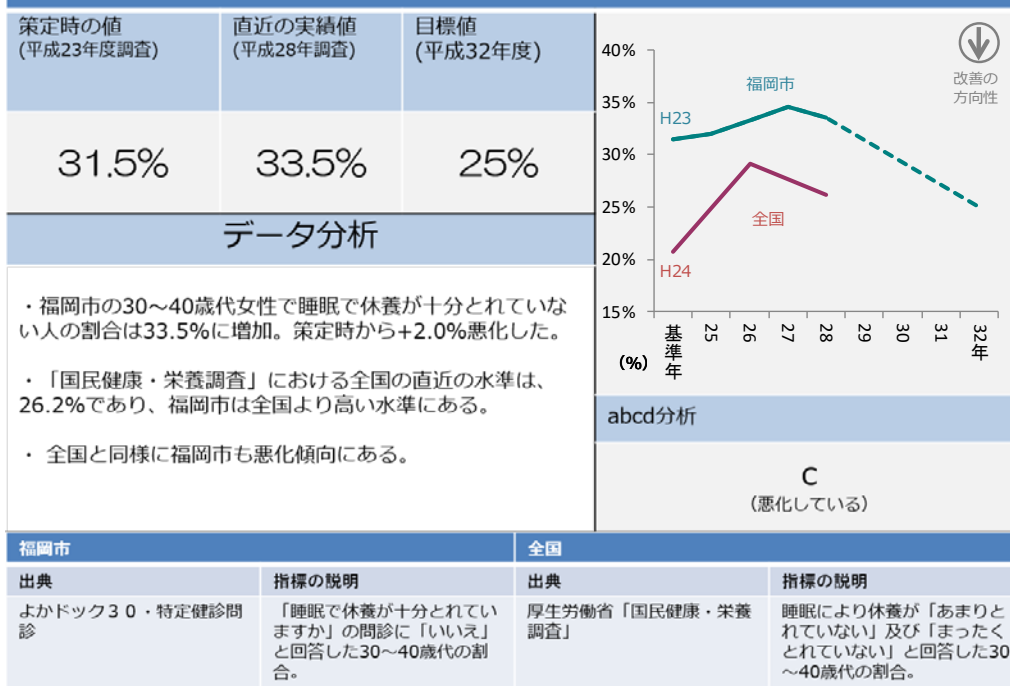


注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移

1 生活習慣病対策の推進

(1)生活習慣の改善

睡眠で休養が十分とれていない人の割合の減少 女性 (30~40歳代)

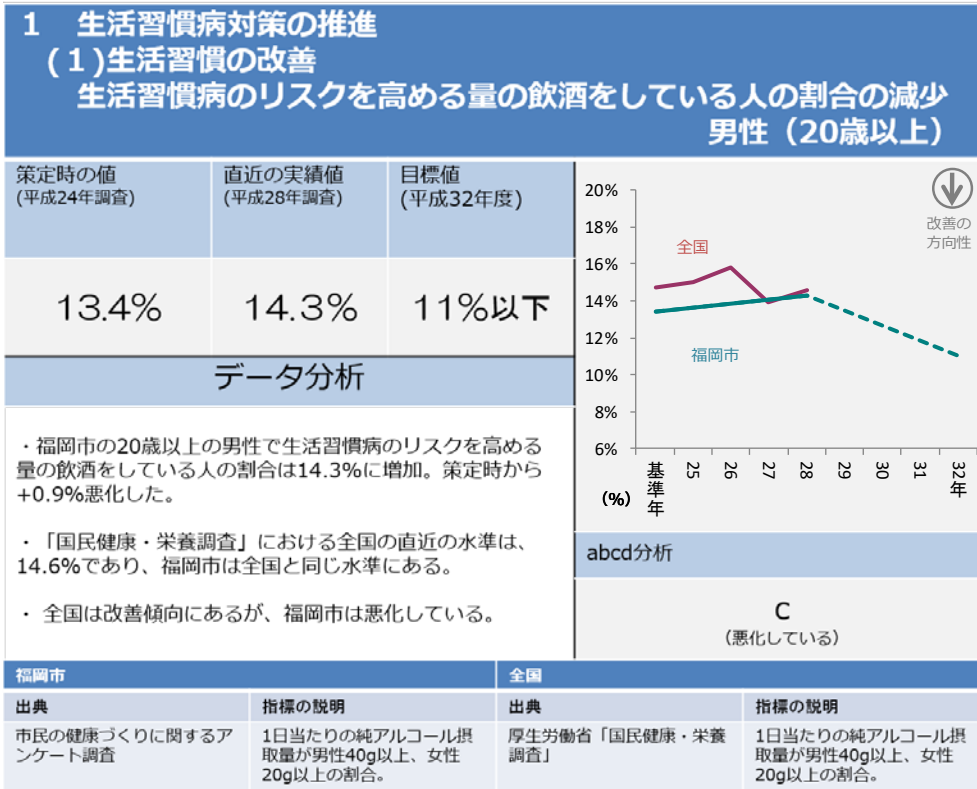


注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移

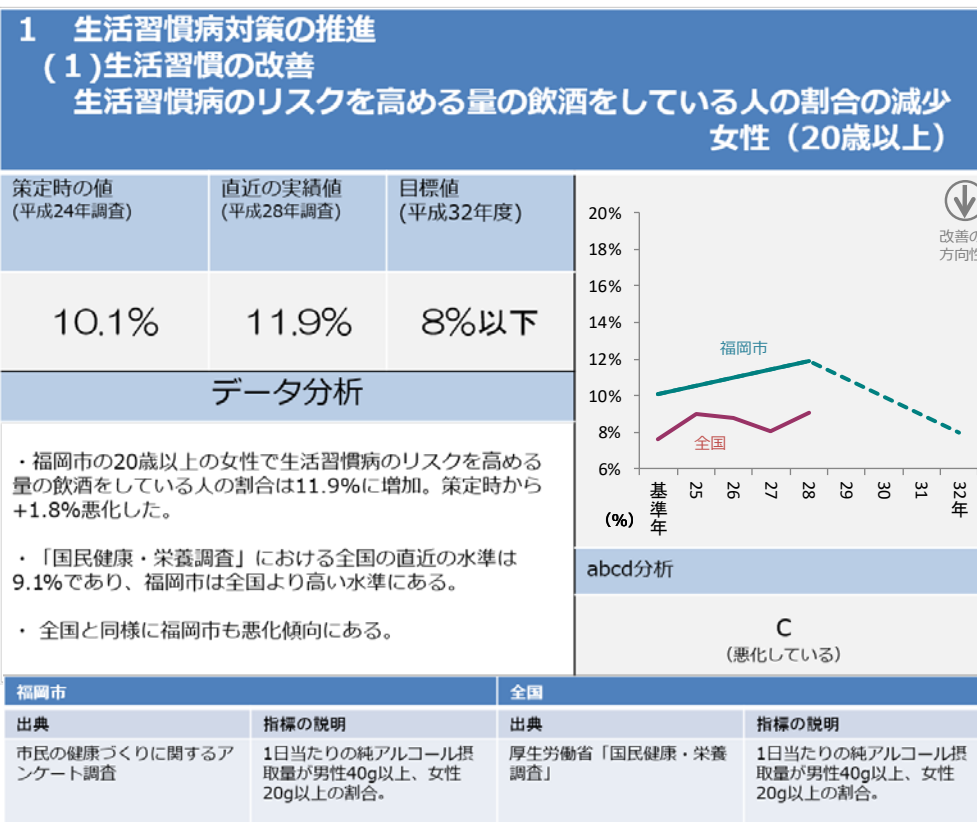
【今後の課題】

○全国・福岡市ともに悪化傾向にあるので、睡眠不足とならないライフスタイルに関する啓発の強化が必要である。

④ 飲酒



注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移

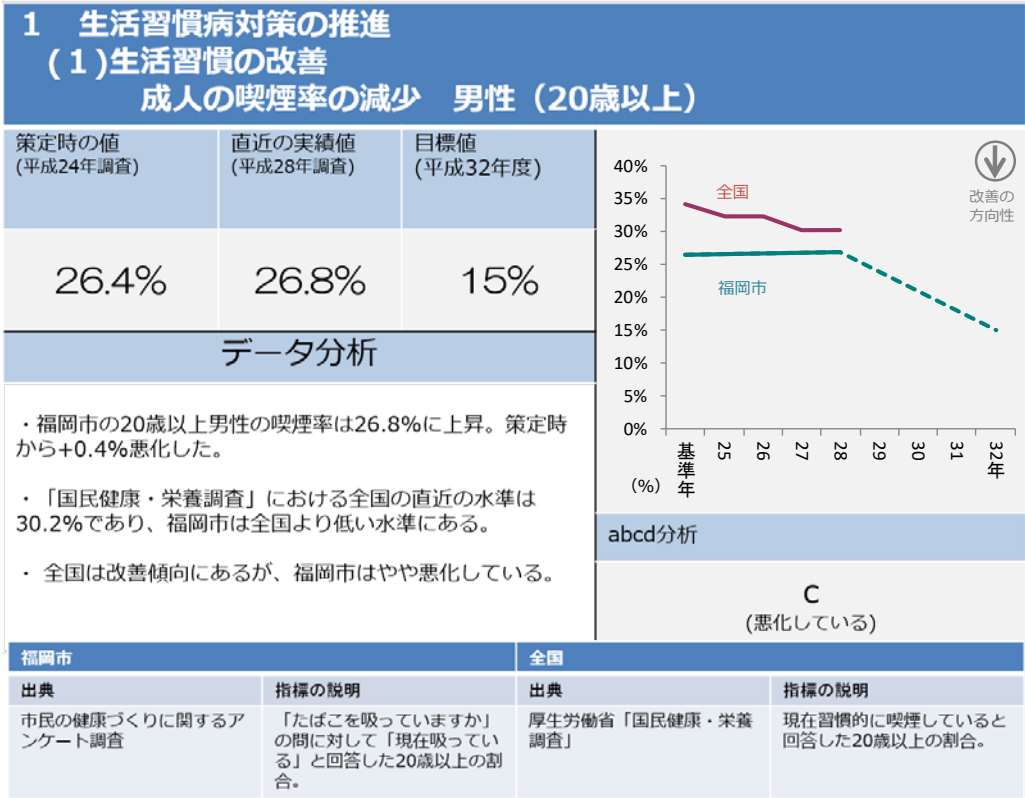


注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移

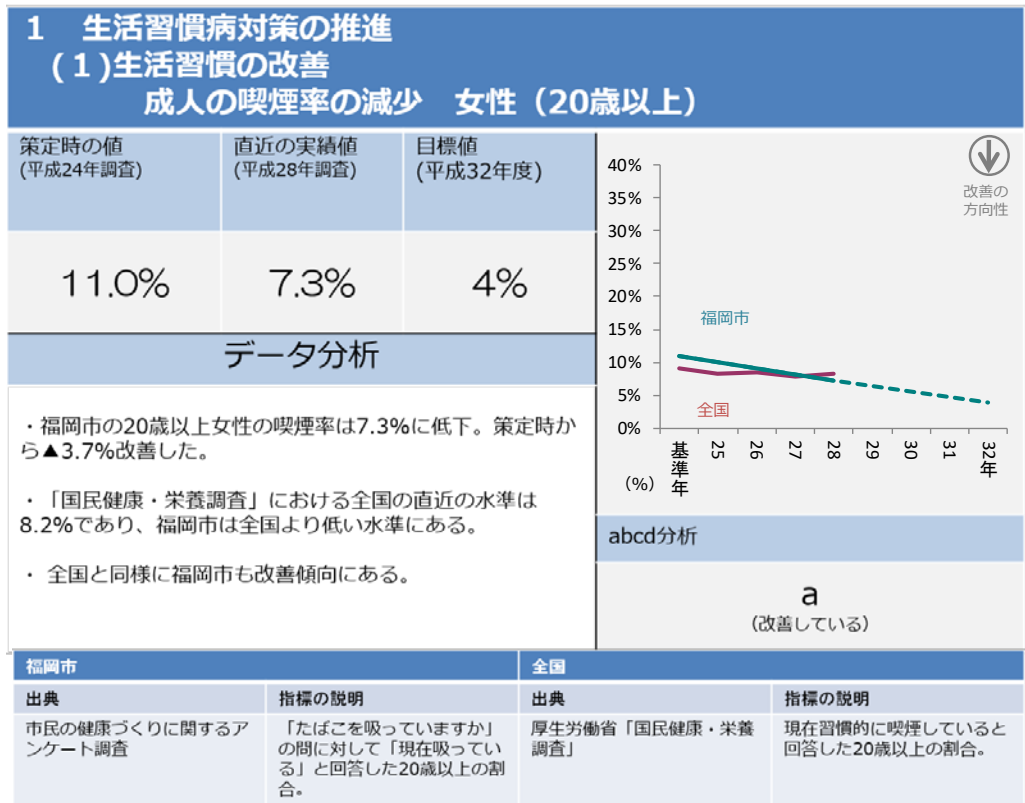
【今後の課題】

- 飲酒習慣の強い層へ焦点を絞った対応の検討が必要である。
- 適正飲酒についての社会への浸透に関しては、行政のみならず民間企業等と連携した取り組みが必要である。

⑤喫煙



注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移

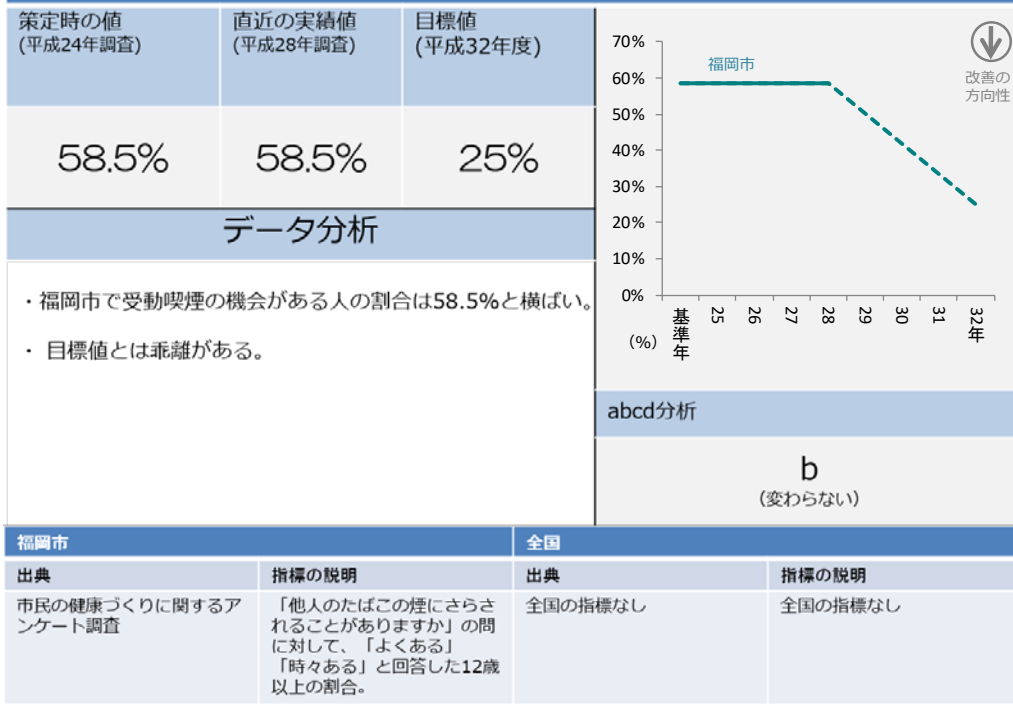


注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移

1 生活習慣病対策の推進

(1)生活習慣の改善

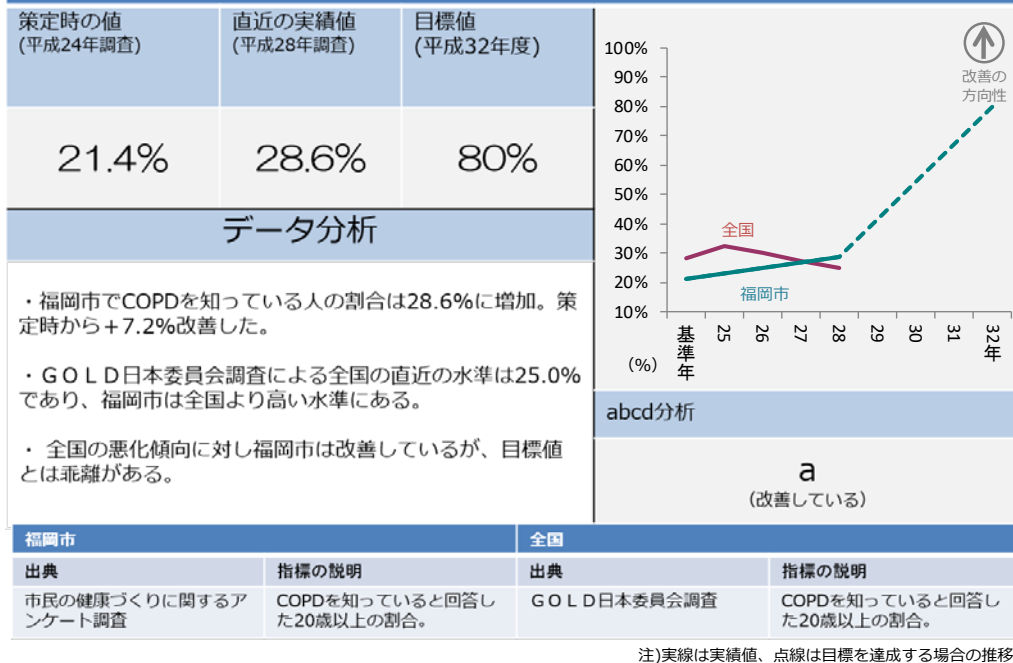
受動喫煙の機会がある人の割合の減少（12歳以上）



1 生活習慣病対策の推進

(1)生活習慣の改善

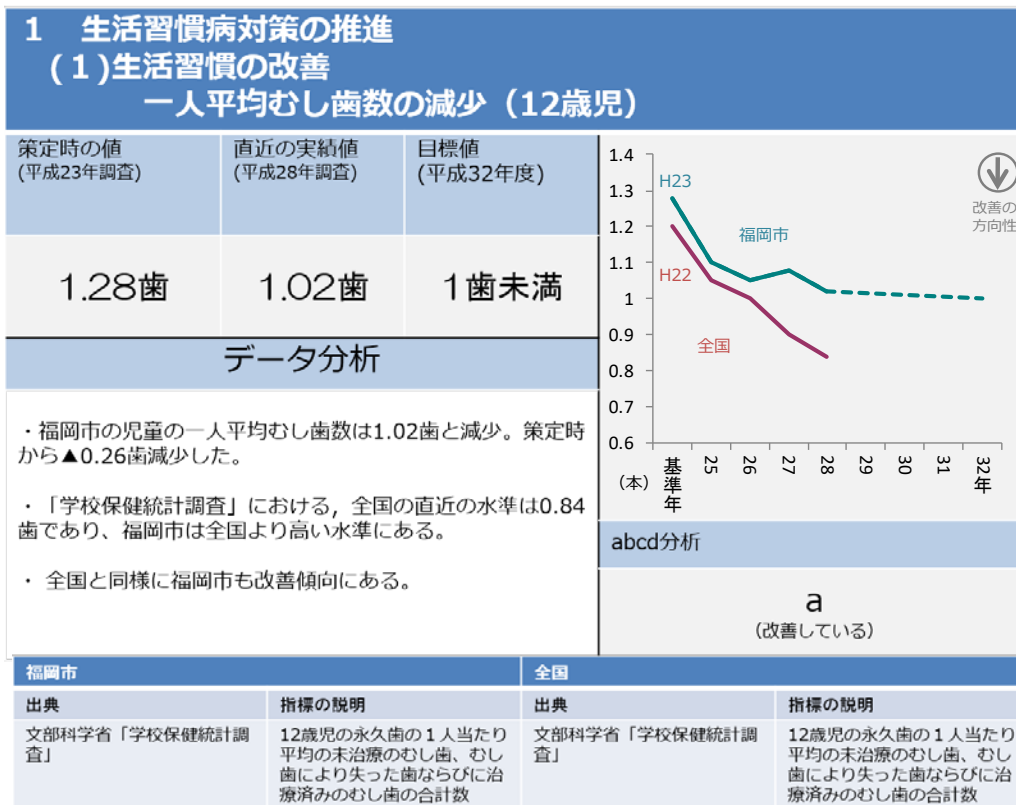
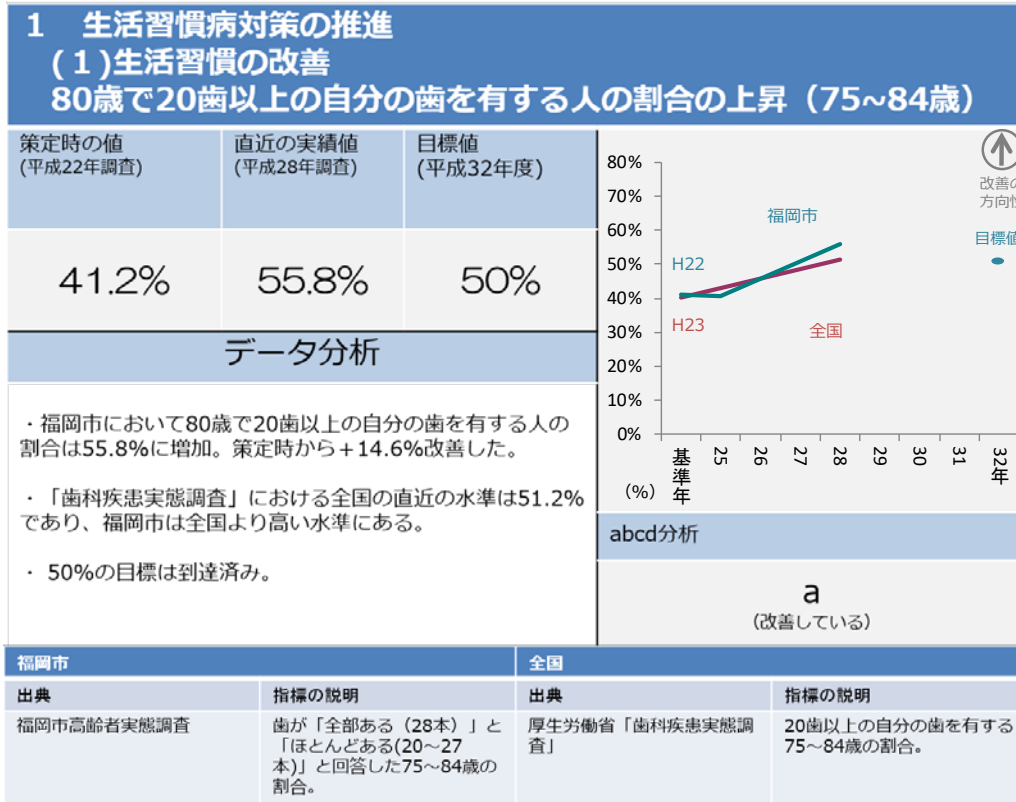
COPDを知っている人の割合の上昇（20歳以上）



【今後の課題】

- 禁煙支援については、啓発・対策も含め、取り組み規模の拡大を行うとともに、禁煙を希望する人へのサポートなどに積極的に取り組む必要である。
- 受動喫煙対策については、国の受動喫煙防止対策の強化（健康増進法改正案）の状況を踏まえて取組みを推進する必要がある。

⑥歯・口腔の健康



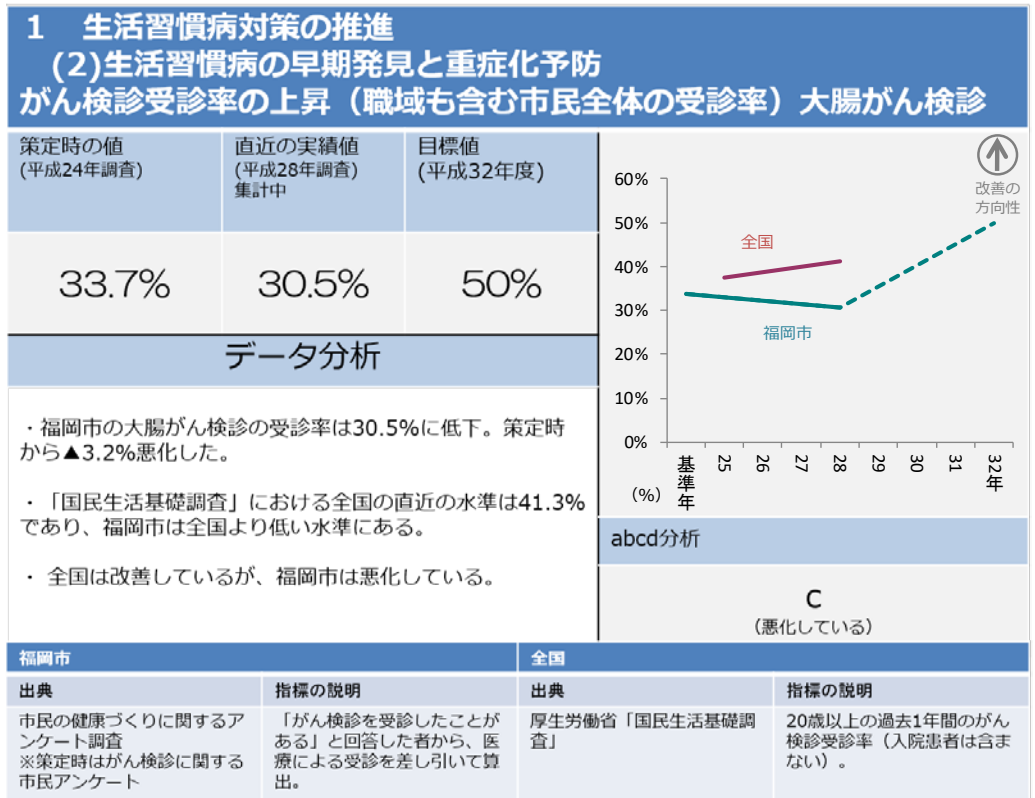
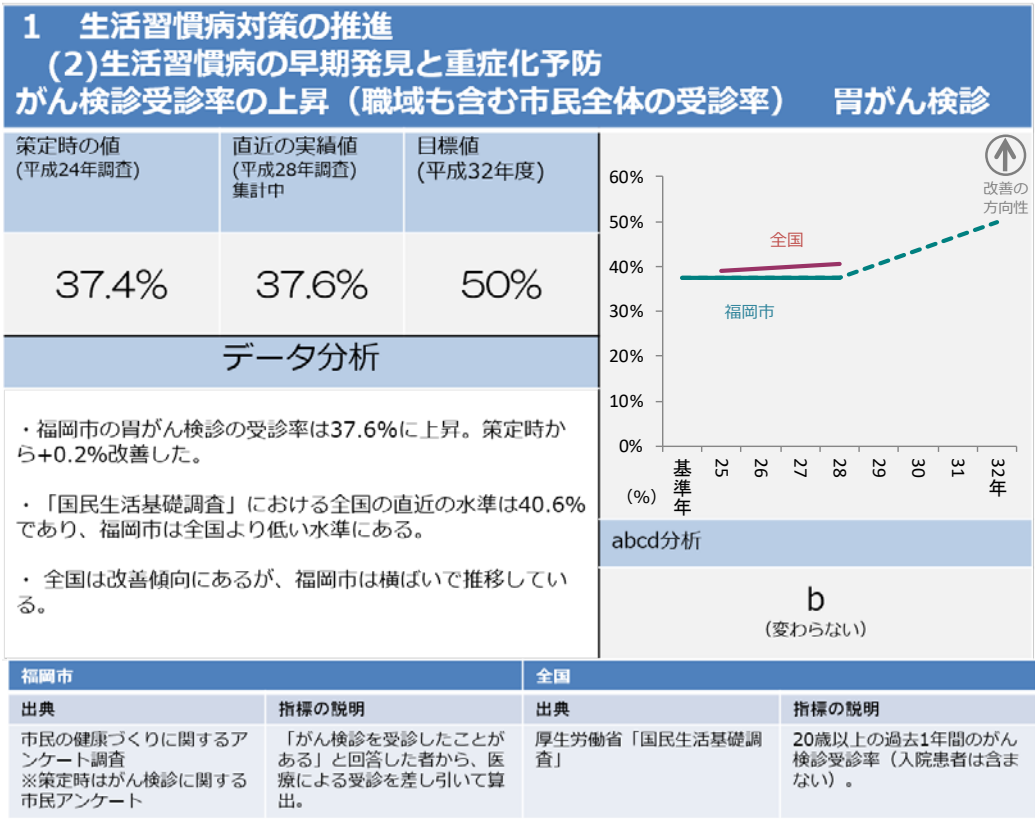
注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移

【今後の課題】

○目標達成可能な状況であることから、今後は取組みの持続的な推進に向けた課題を整理していく必要がある。

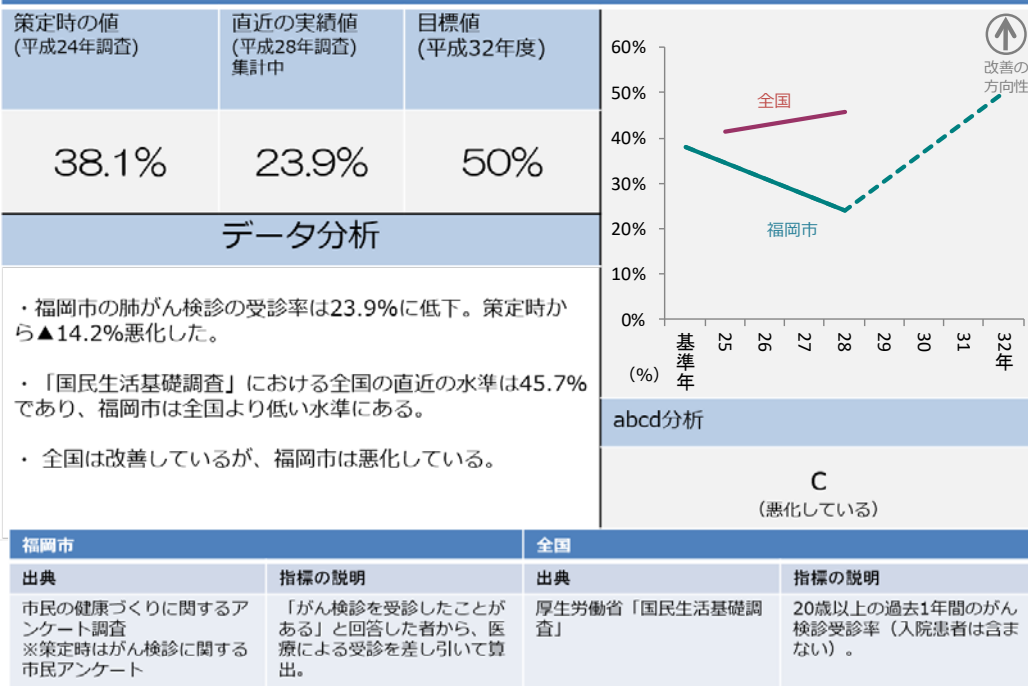
(2)生活習慣病の早期発見と重症化予防

①がん



1 生活習慣病対策の推進

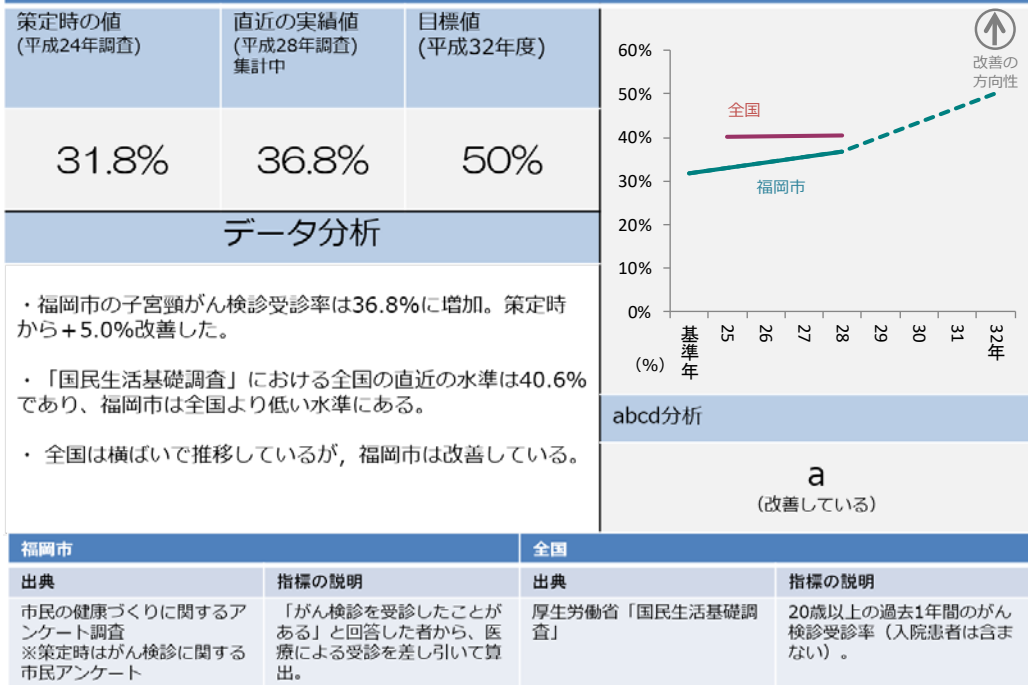
(2)生活習慣病の早期発見と重症化予防 がん検診受診率の上昇（職域も含む市民全体の受診率）肺がん検診



注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移

1 生活習慣病対策の推進

(2)生活習慣病の早期発見と重症化予防 がん検診受診率の上昇（職域も含む市民全体の受診率）子宮頸がん検診

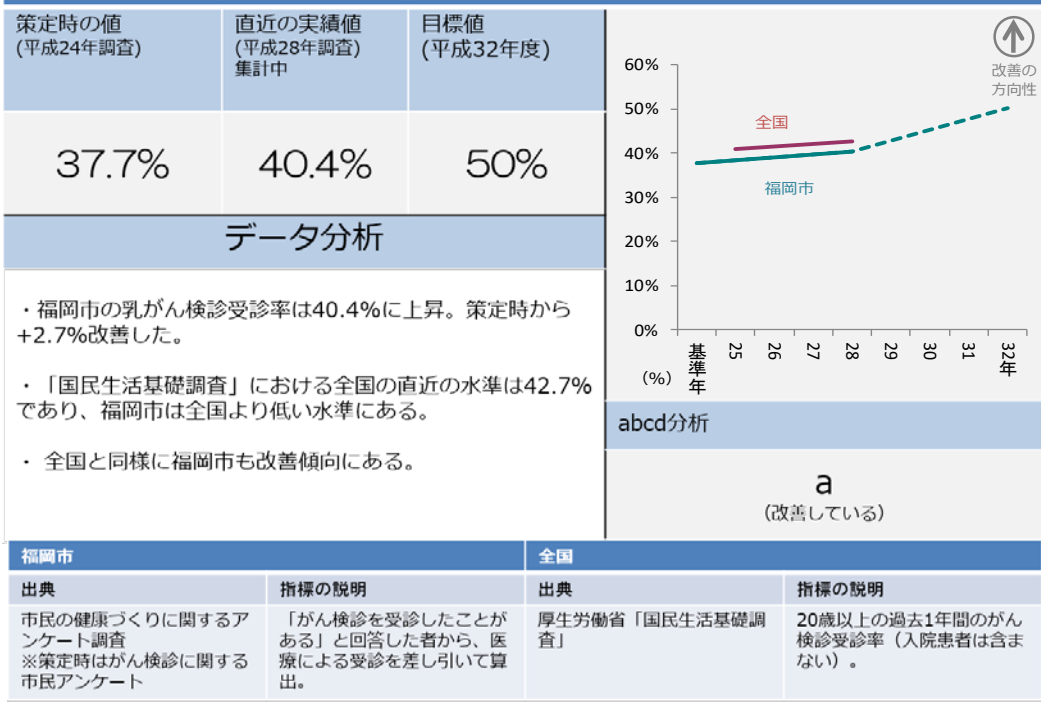


注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移

1 生活習慣病対策の推進

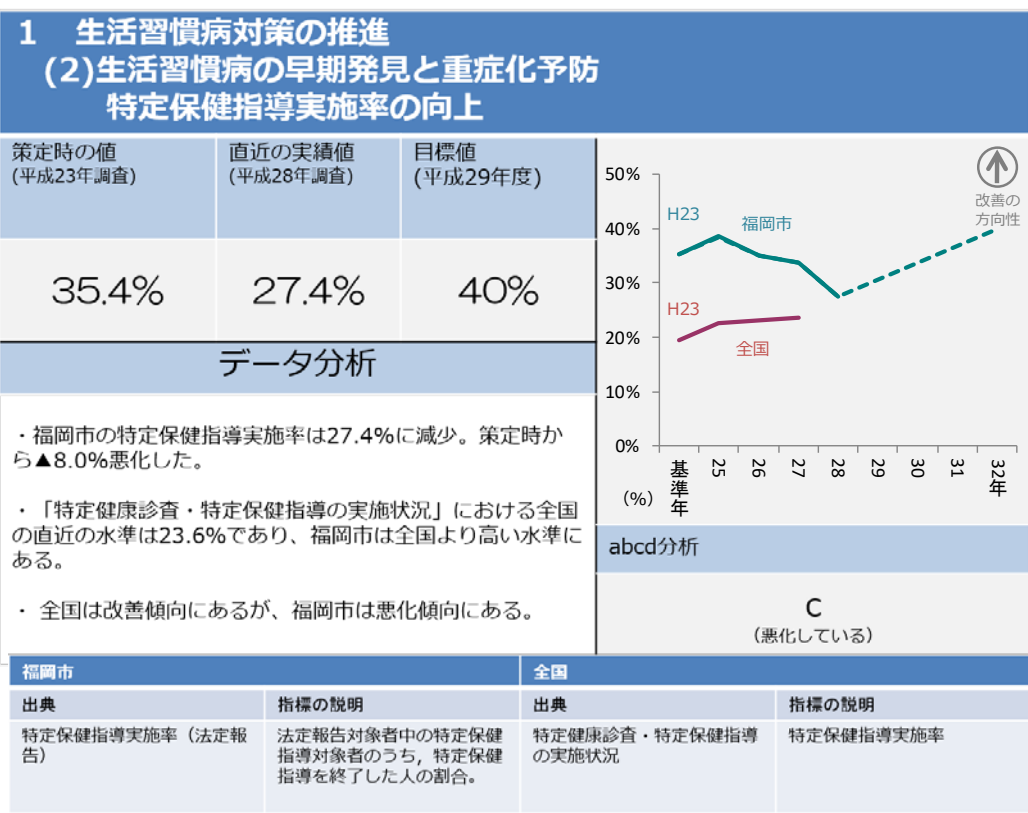
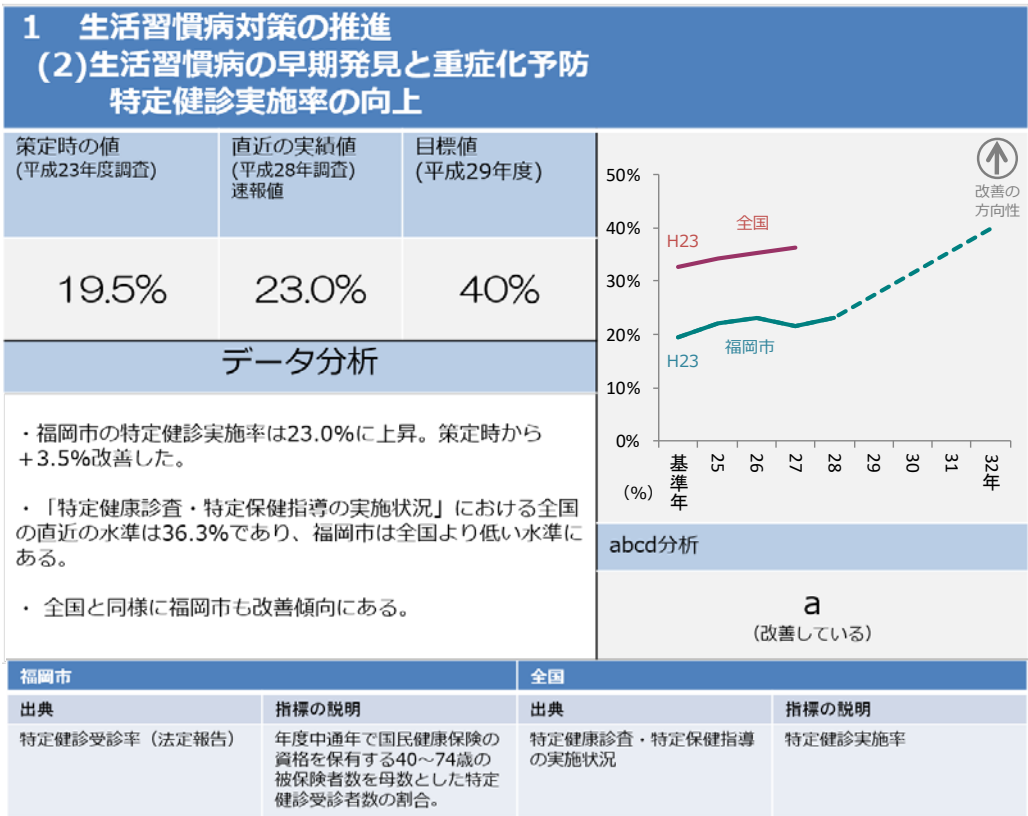
(2)生活習慣病の早期発見と重症化予防

がん検診受診率の上昇（職域も含む市民全体の受診率）乳がん検診



- 【今後の課題】**
- 広報啓発及び無料クーポン券配布の事業効果（受診率上昇効果、費用対効果等）を検証のうえ、取組みの改善や規模の拡大を検討する必要がある。
 - これまで受診率が向上していない、もしくは低下している対象（年代・属性等）に焦点をあてた重点的な啓発、受診勧奨が必要である。

②循環器疾患（心疾患・高血圧・脳卒中）

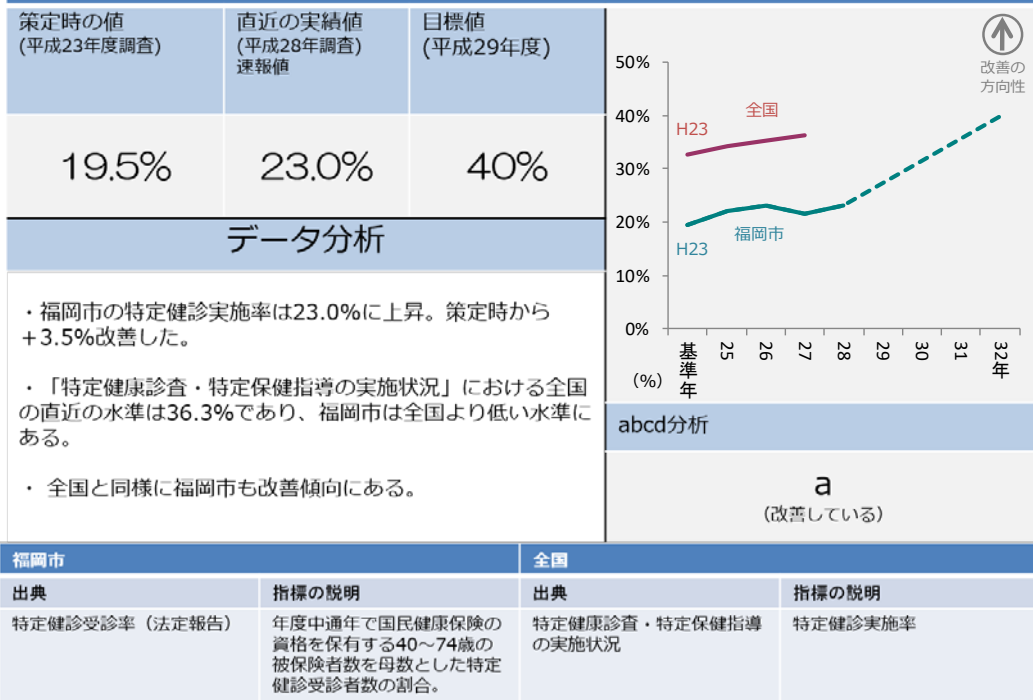


【今後の課題】

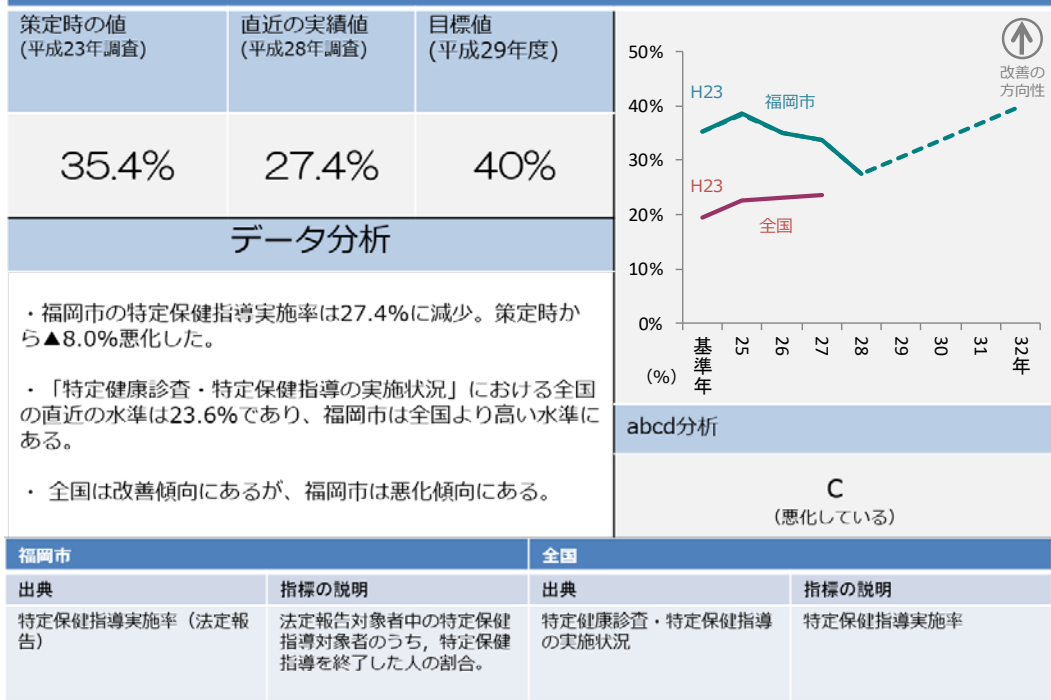
○これまでで受診率の向上していない、もしくは低下している対象（年代・属性等）に焦点をあてた重点的な啓発、受診勧奨が必要である。

③糖尿病・慢性腎臓病（CKD）

1 生活習慣病対策の推進 (2)生活習慣病の早期発見と重症化予防 特定健診実施率の向上【再掲】

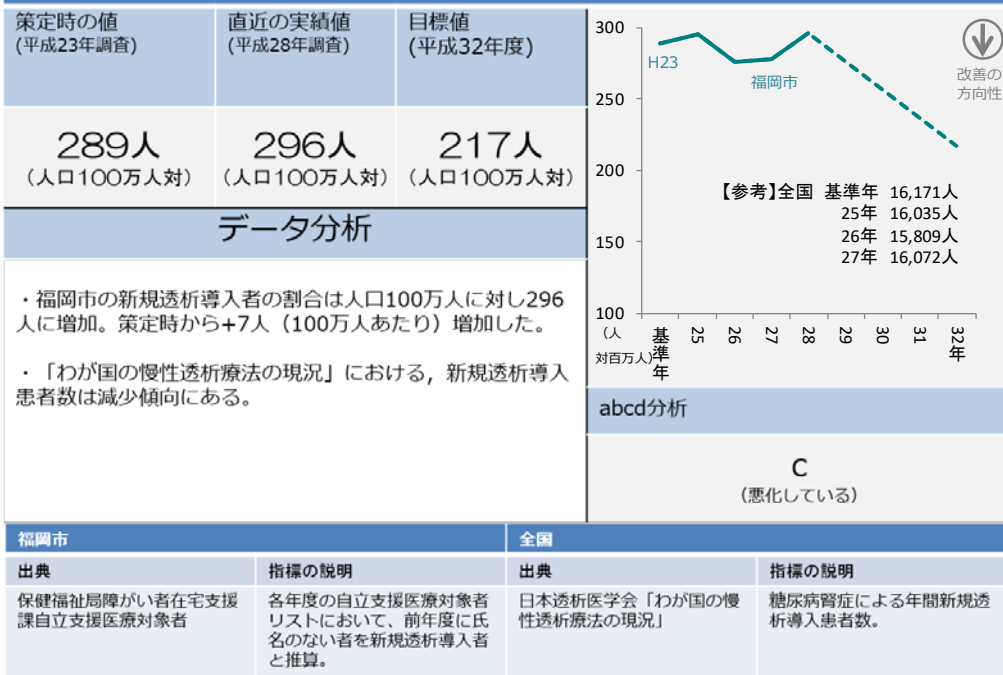


1 生活習慣病対策の推進 (2)生活習慣病の早期発見と重症化予防 特定保健指導実施率の向上【再掲】



1 生活習慣病対策の推進

(2)生活習慣病の早期発見と重症化予防 新規透析導入者の割合の減少

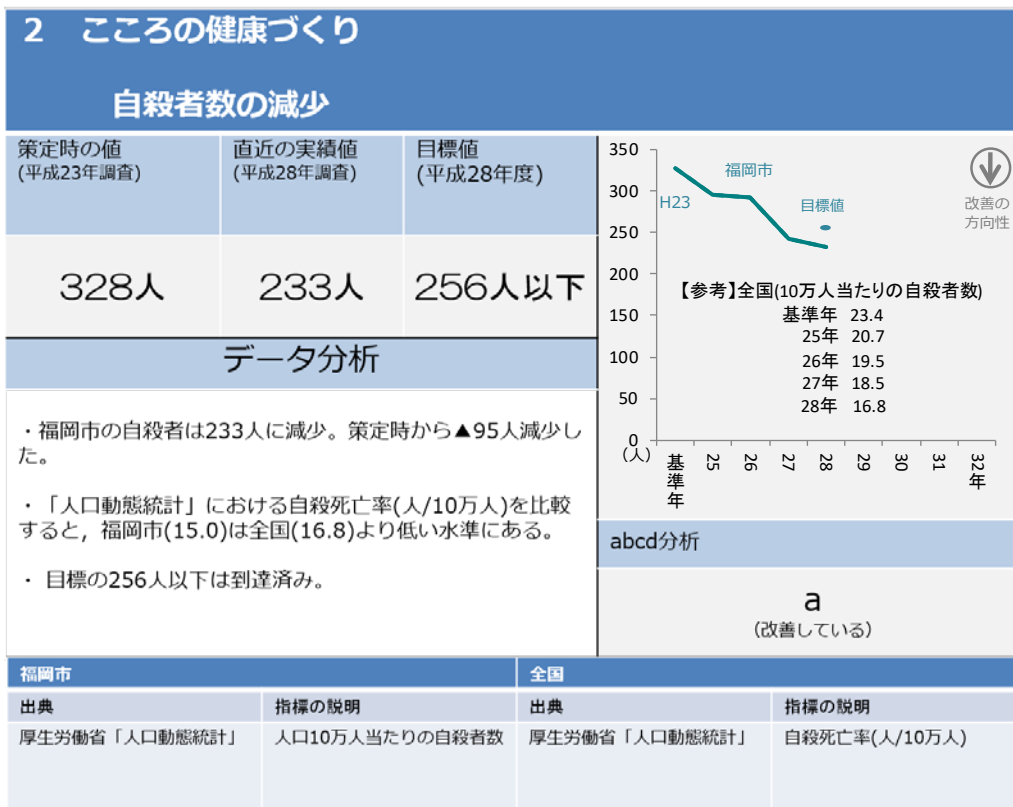


注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移

【今後の課題】

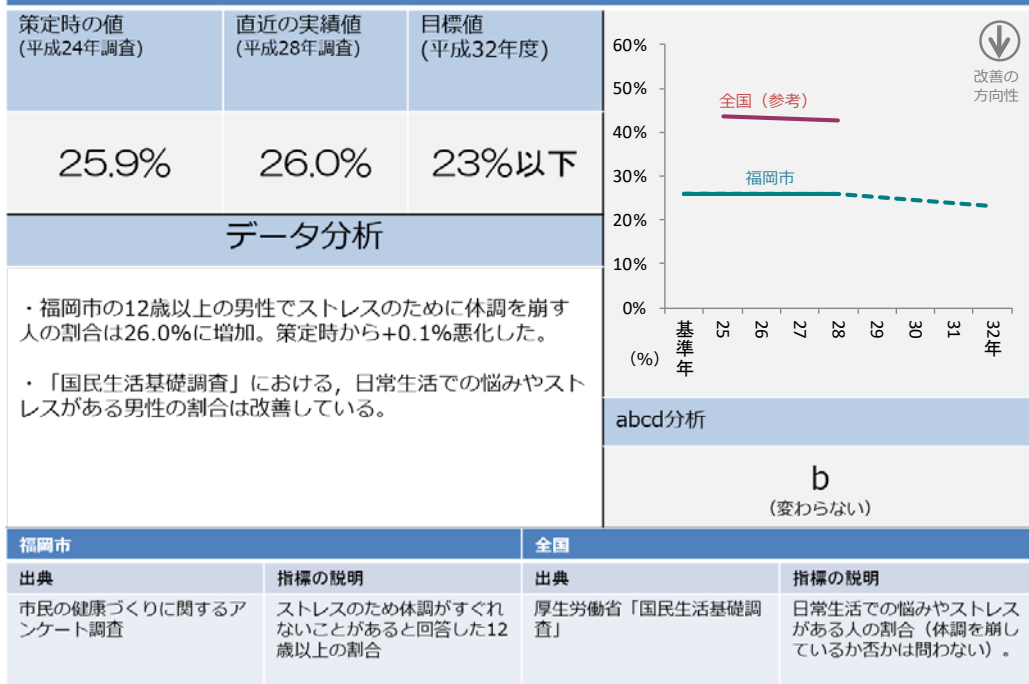
○新規透析導入者の減少に関しては、早期からの生活習慣の改善が重要であるため、企業の健保組合などと連携した取組みが必要である。

2 こころの健康づくり



2 こころの健康づくり

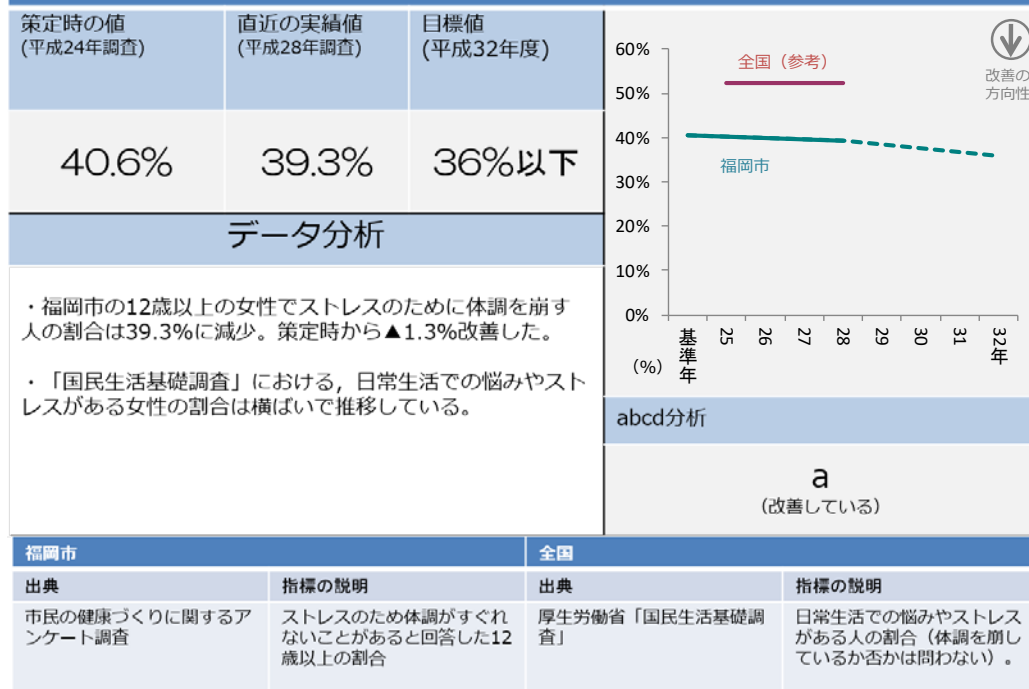
ストレスのために体調を崩す人の減少 男性（12歳以上）



注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移

2 こころの健康づくり

ストレスのために体調を崩す人の減少 女性（12歳以上）



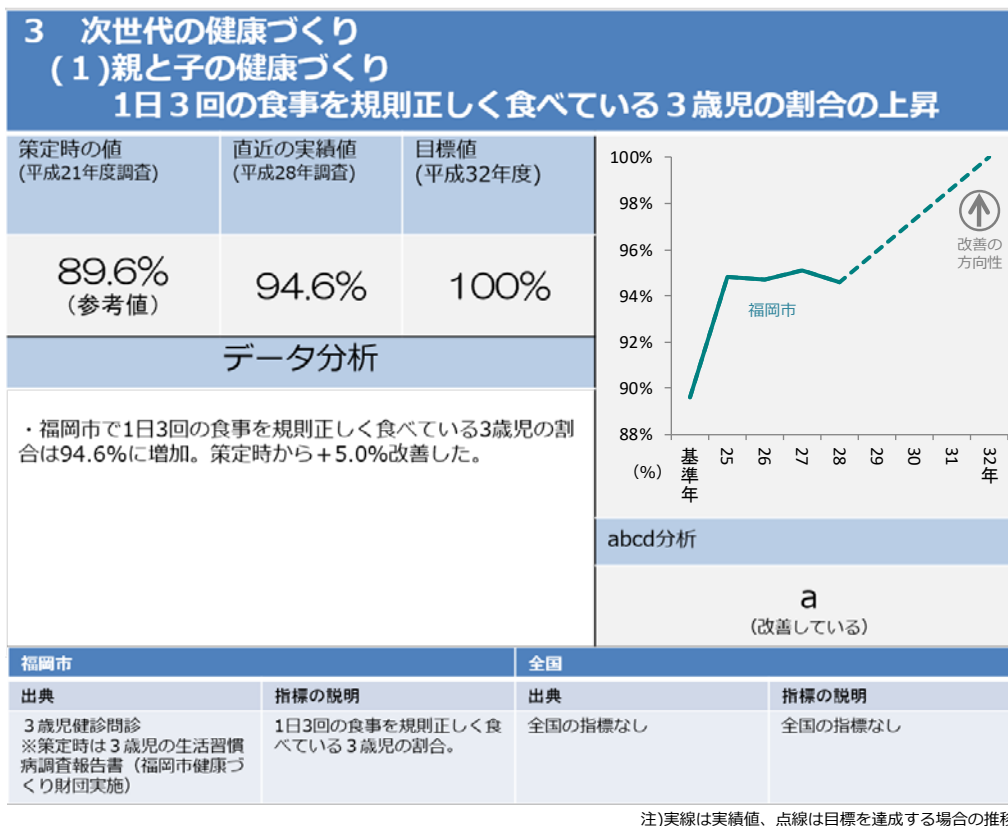
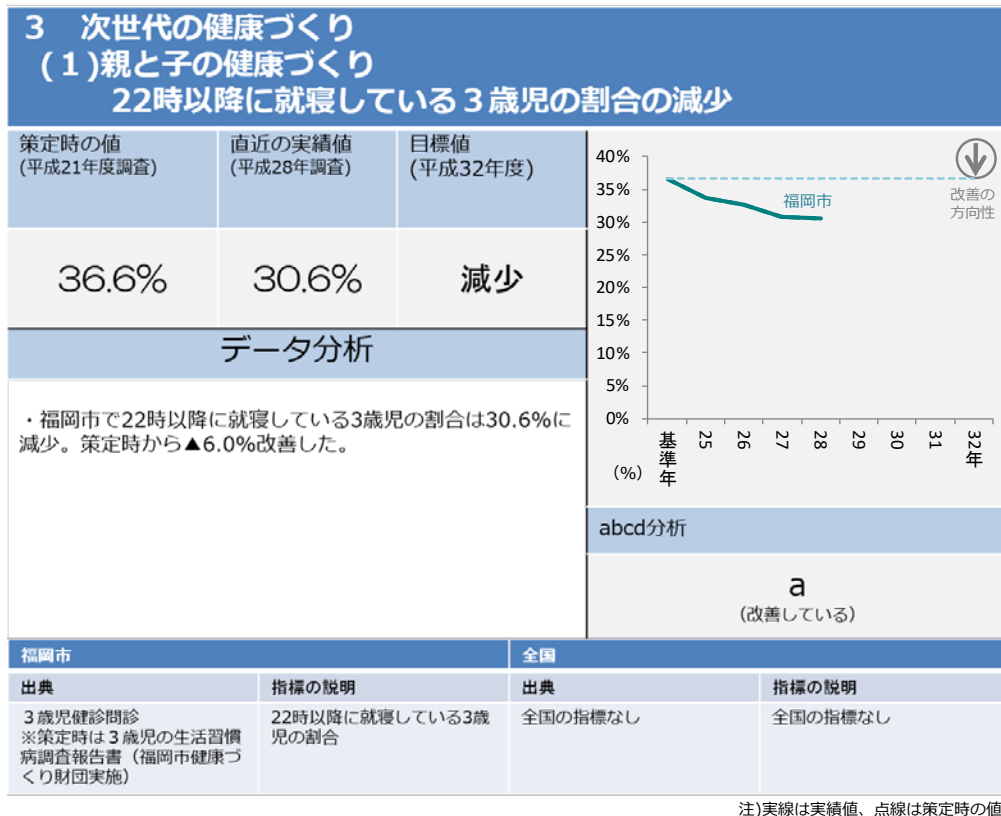
注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移

【今後の課題】

○ストレスのために体調を崩す人への対応については、年代や職場、家庭環境などの細分化した要因を特定のうえ、指標の改善に向けた取組みを検討する必要がある。

3 次世代の健康づくり

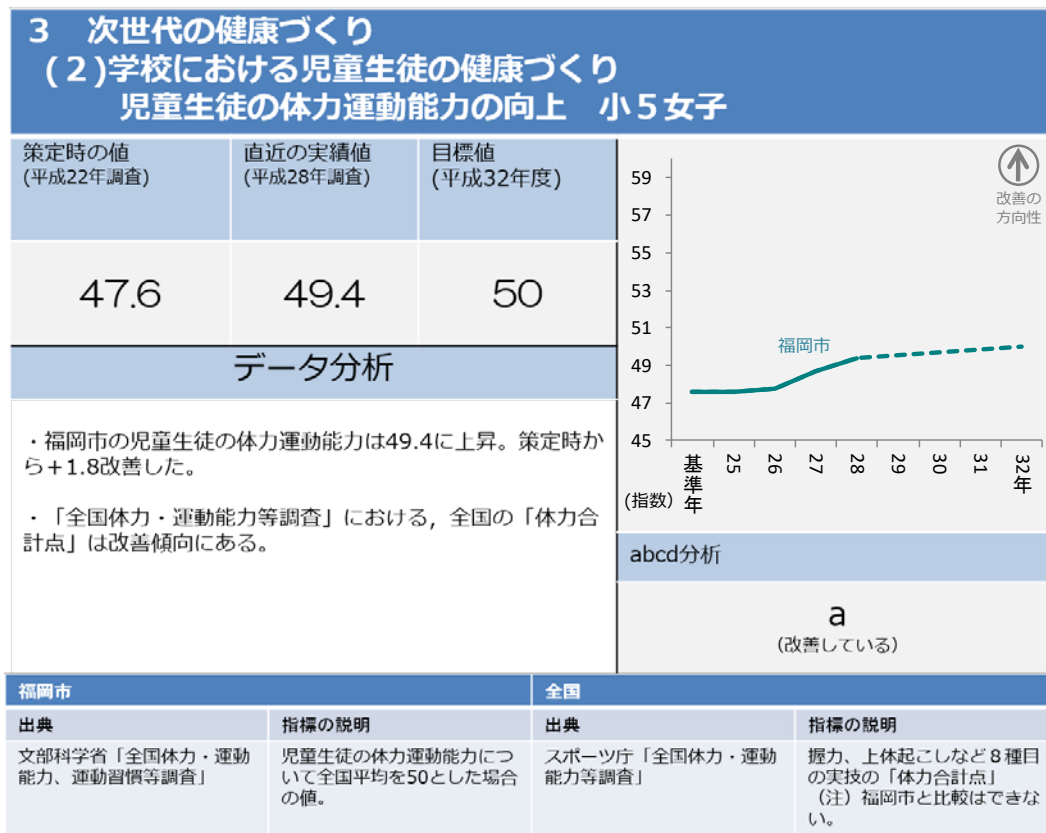
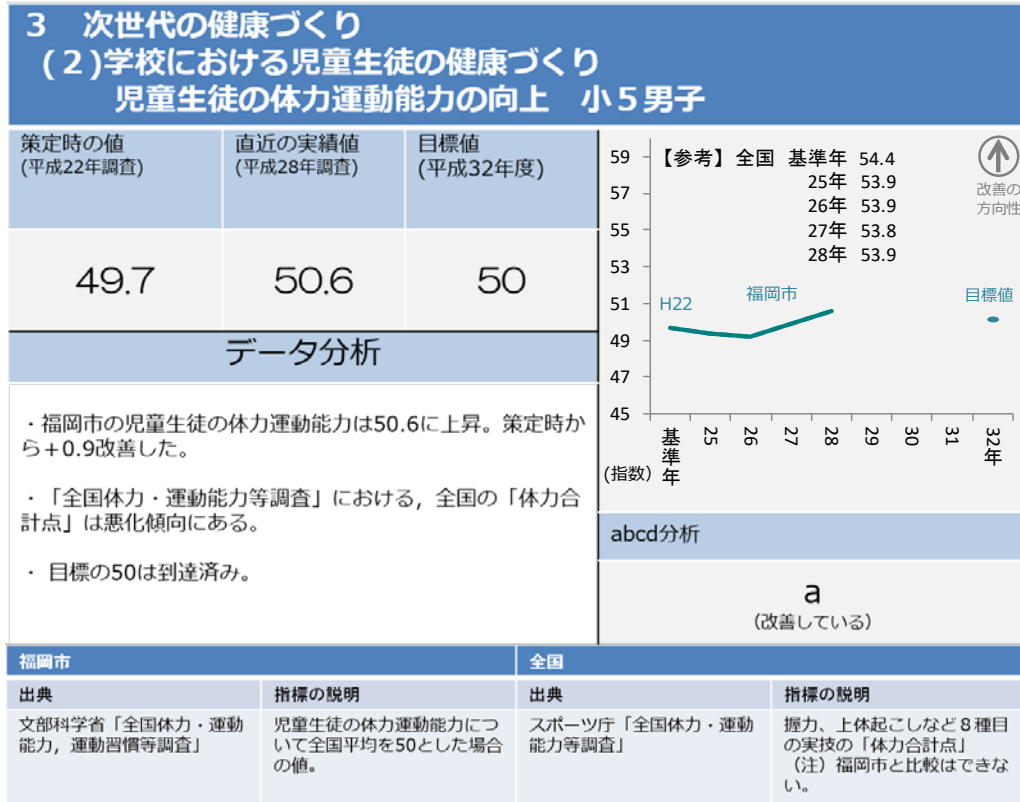
(1) 親と子の健康づくり



【今後の課題】

○3歳児の就寝時間・食事環境は改善に向かっているが、引き続き、規則的な生活ができるよう啓発や環境づくりを行っていく必要がある。

(2)学校における児童生徒の健康づくり



注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移

3 次世代の健康づくり (2)学校における児童生徒の健康づくり 児童生徒の体力運動能力の向上 中2男子

策定時の値 (平成22年調査)	直近の実績値 (平成28年調査)	目標値 (平成32年度)	<p>【参考】全国 基準年 41.5 25年 41.7 26年 41.6 27年 41.8 28年 42.0</p> <p>↑ 改善の方向性</p>
47.3	49.3	50	
データ分析			abcd分析
<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市の児童生徒の体力運動能力は49.3に上昇。策定時から+2.0改善した。 ・「全国体力・運動能力等調査」における、全国の「体力合計点」は改善傾向にある。 			a (改善している)
福岡市		全国	
出典	指標の説明	出典	指標の説明
文部科学省「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」	児童生徒の体力運動能力について全国平均を50とした場合の値。	スポーツ庁「全国体力・運動能力等調査」	握力、上体起こしなど8種目の実技の「体力合計点」 (注)福岡市と比較はできない。

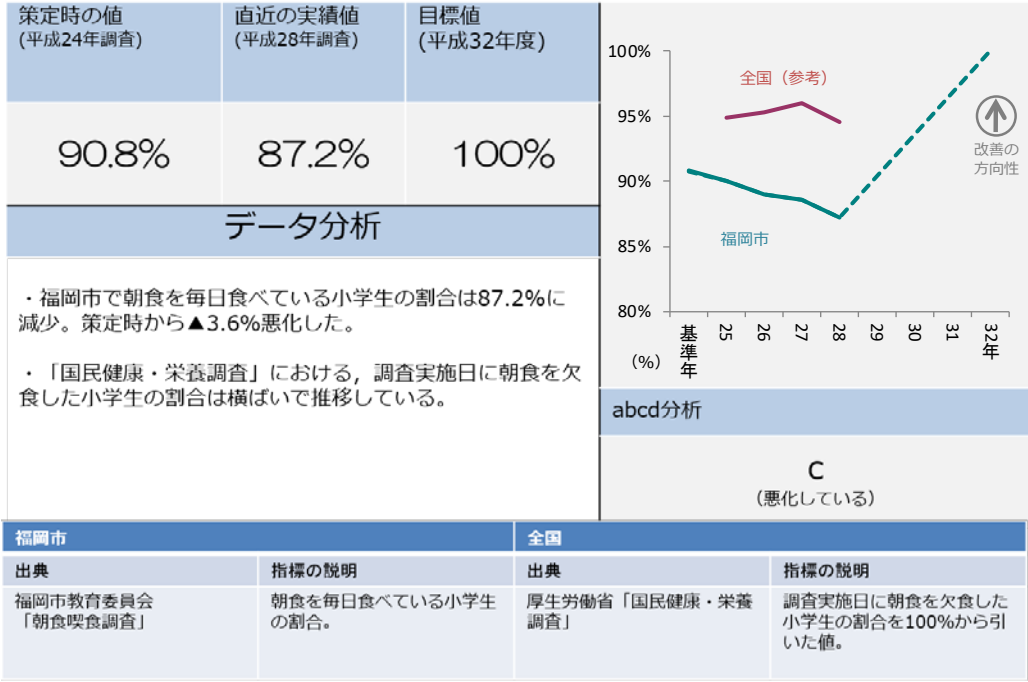
注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移

3 次世代の健康づくり (2)学校における児童生徒の健康づくり 児童生徒の体力運動能力の向上 中2女子

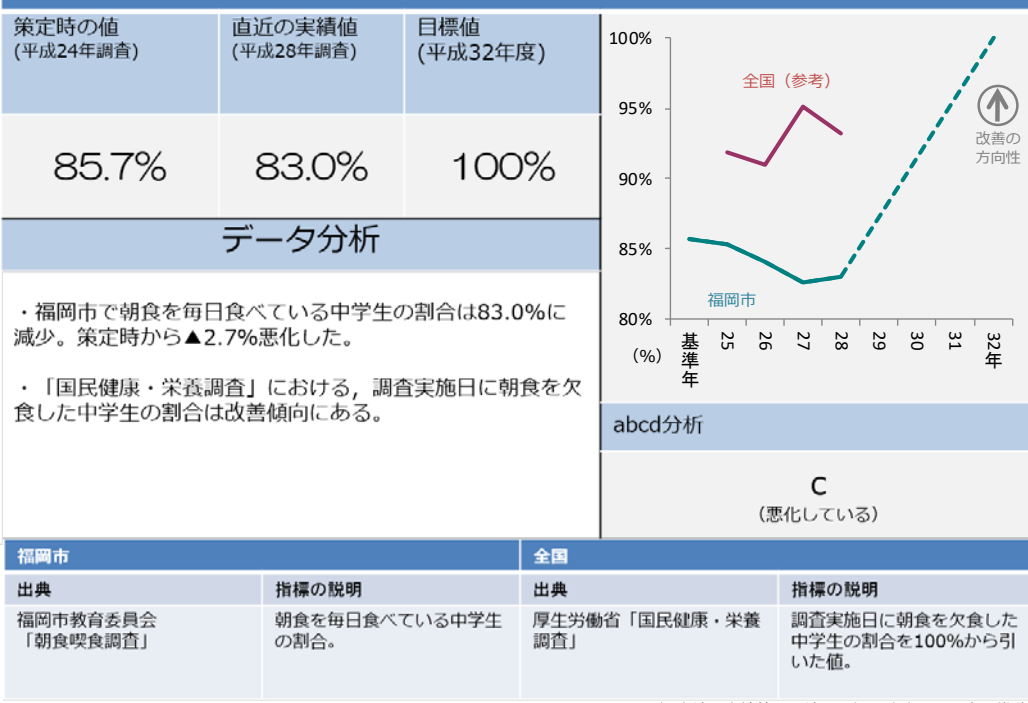
策定時の値 (平成22年調査)	直近の実績値 (平成28年調査)	目標値 (平成32年度)	<p>【参考】全国 基準年 48.0 25年 48.3 26年 48.5 27年 49.0 28年 49.4</p> <p>↑ 改善の方向性</p>
47.3	48.5	50	
データ分析			abcd分析
<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市の児童生徒の体力運動能力は48.5に上昇。策定時から+1.2改善した。 ・「全国体力・運動能力等調査」における、全国の「体力合計点」は改善している。 			a (改善している)
福岡市		全国	
出典	指標の説明	出典	指標の説明
文部科学省「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」	児童生徒の体力運動能力について全国平均を50とした場合の値。	スポーツ庁「全国体力・運動能力等調査」	握力、上体起こしなど8種目の実技の「体力合計点」 (注)福岡市と比較はできない。

注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移

3 次世代の健康づくり (2)学校における児童生徒の健康づくり 朝食を毎日食べている児童生徒の割合の上昇 小学生



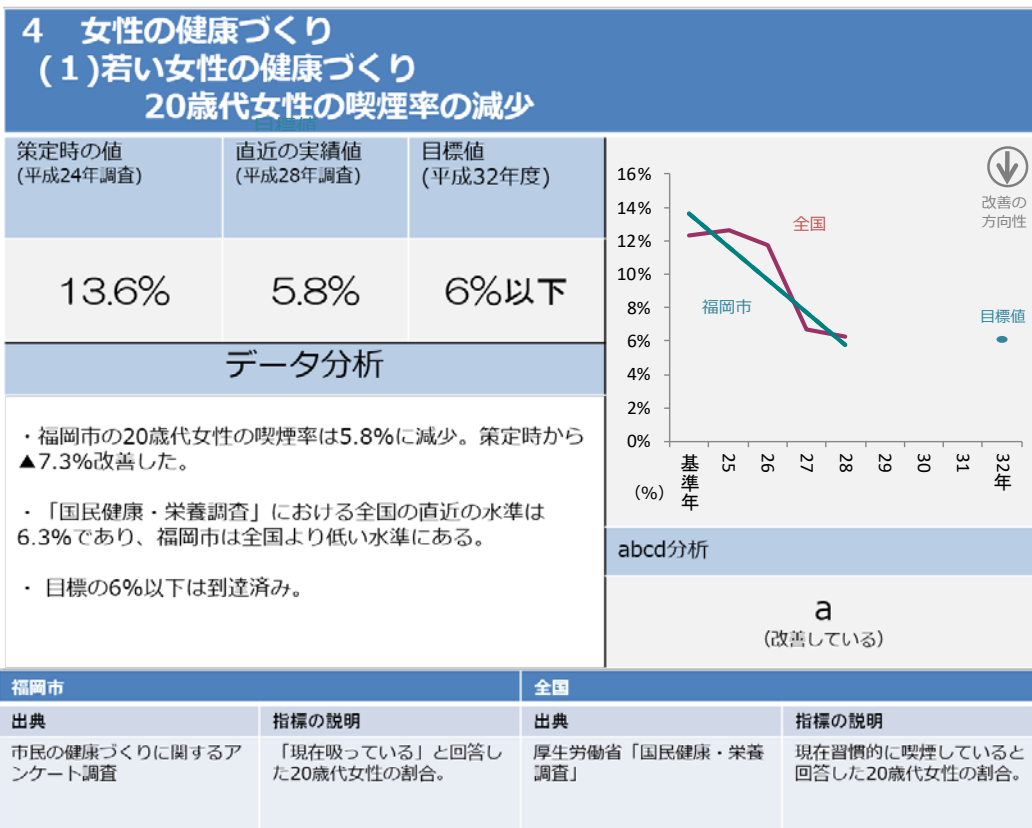
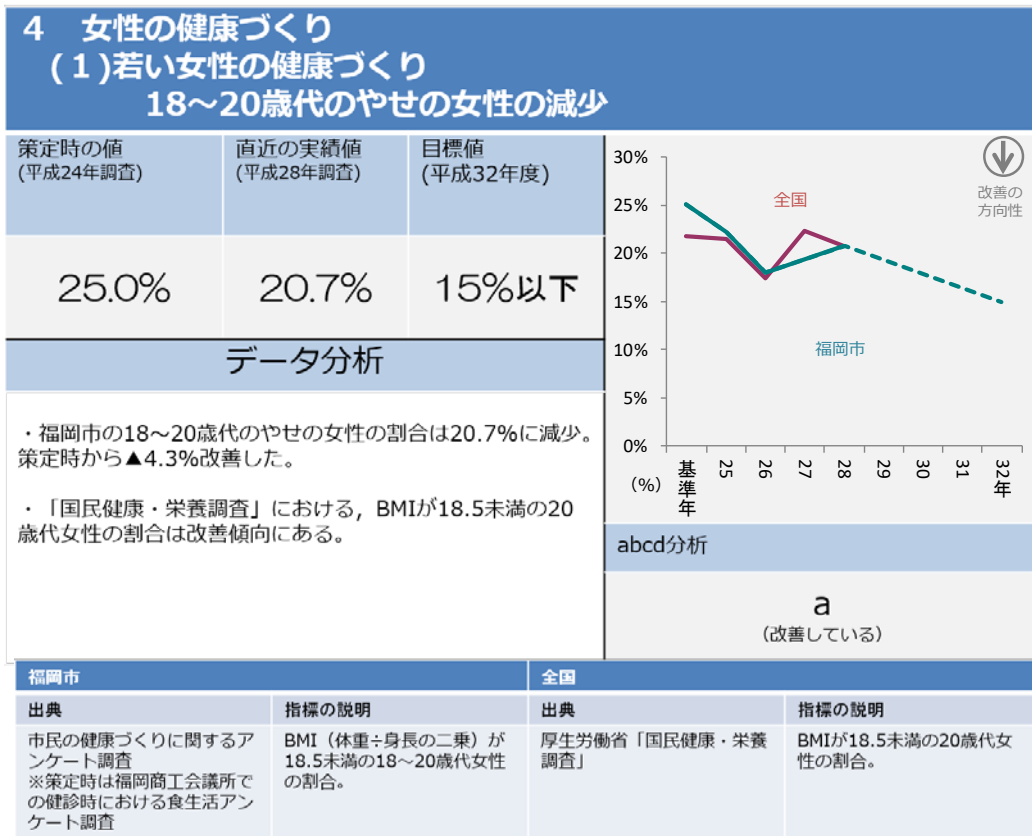
3 次世代の健康づくり (2)学校における児童生徒の健康づくり 朝食を毎日食べている児童生徒の割合の上昇 中学生



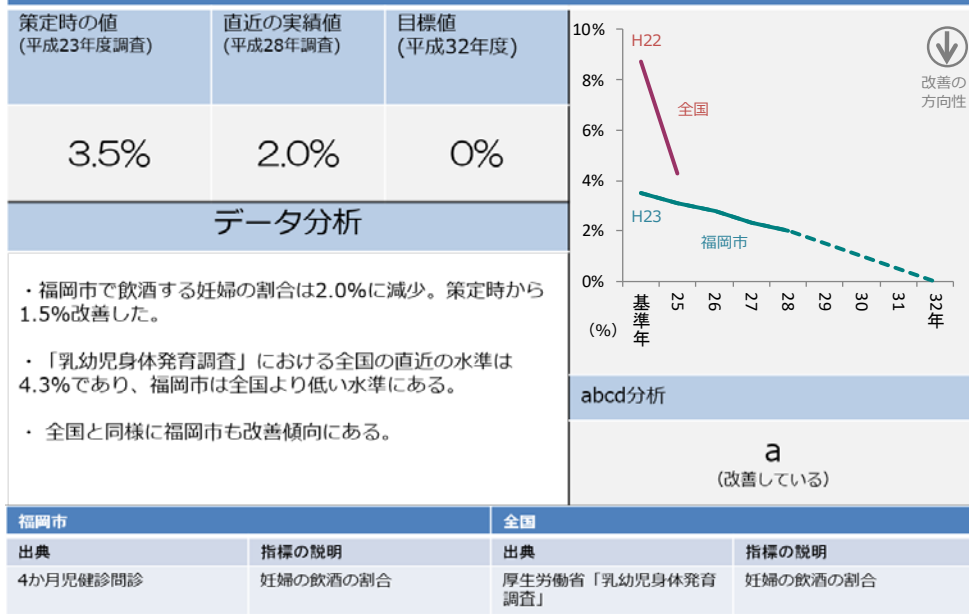
【今後の課題】
 ○朝食を毎日食べている児童生徒の割合については、より具体的な指標低下の要因を検討する必要がある。

4 女性の健康づくり

(1)若い女性の健康づくり



4 女性の健康づくり (1)若い女性の健康づくり 妊婦の飲酒の防止



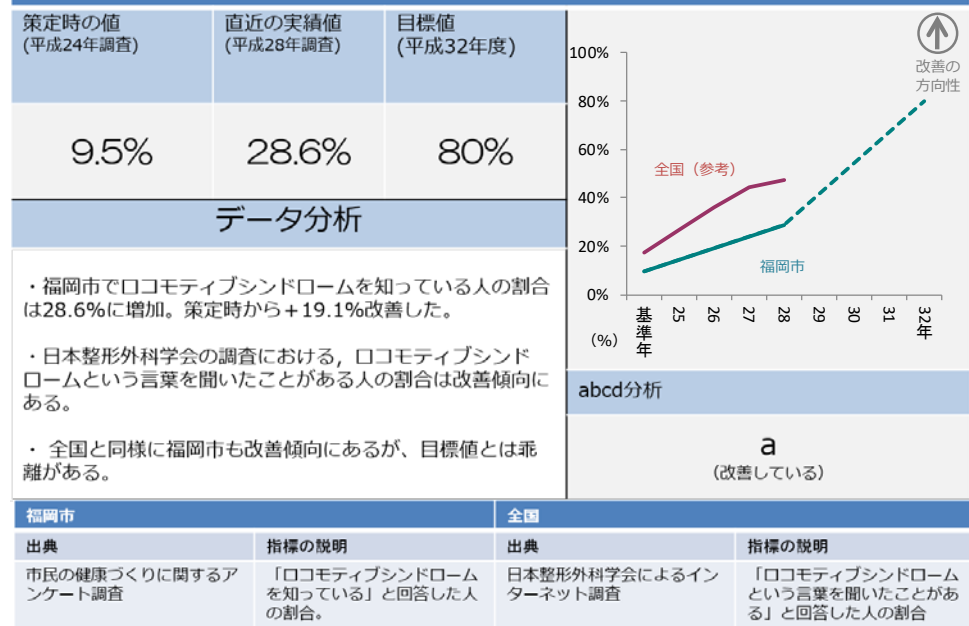
注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移

【今後の課題】

〇マスメディアやSNSなどの影響も強い世代のため、啓発の取組みを増やすとともにプロモーションの方法についても工夫する必要がある。

(2)中高年の女性の健康づくり

4 女性の健康づくり (2)中高年の女性の健康づくり ロコモティブシンドロームを知っている人の割合の上昇 (40歳以上)



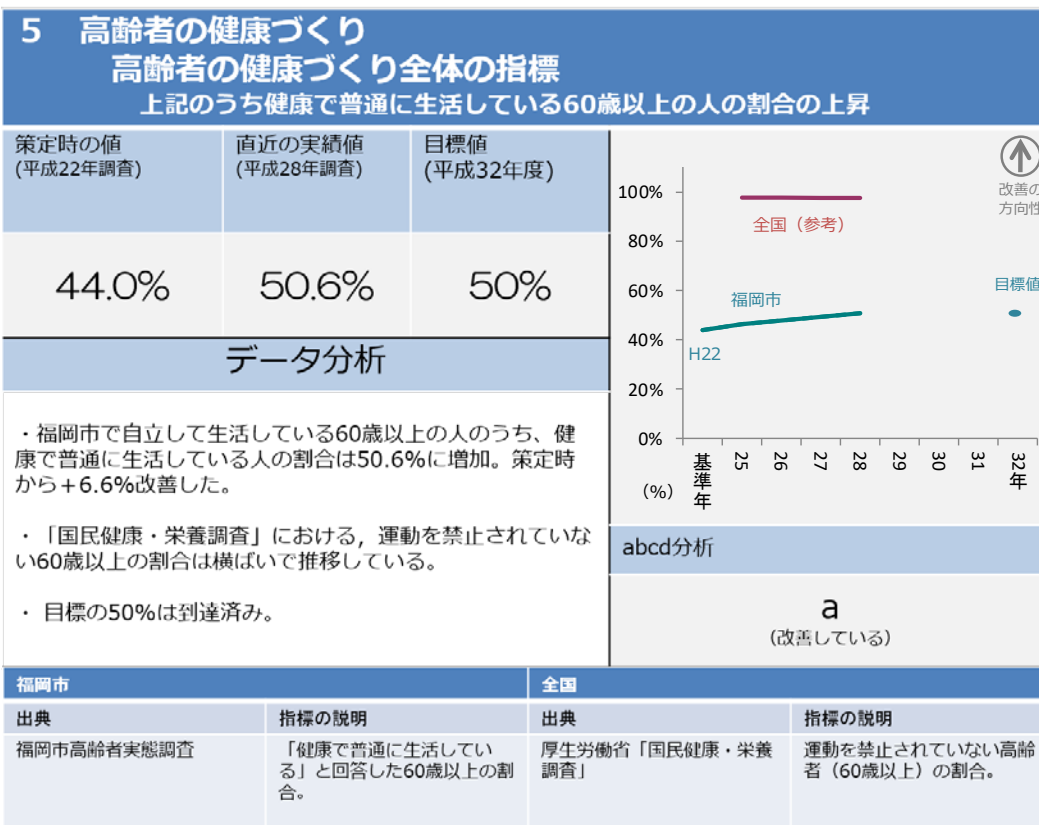
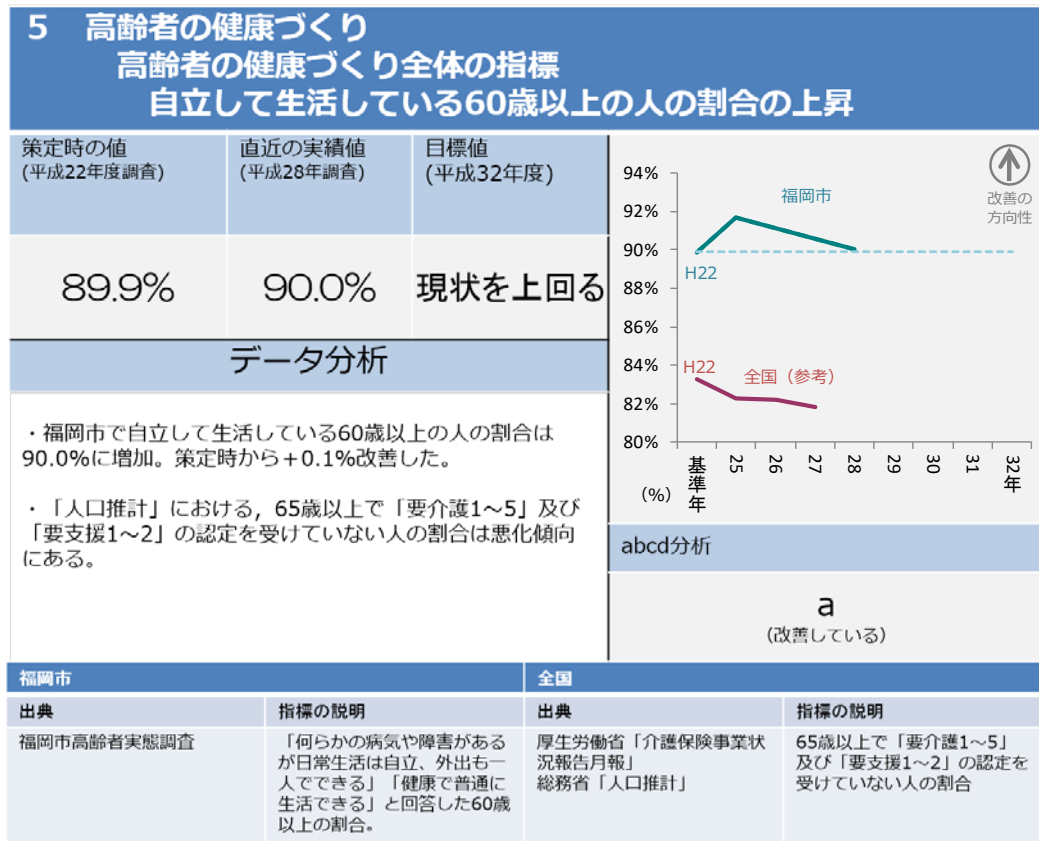
注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移

【今後の課題】

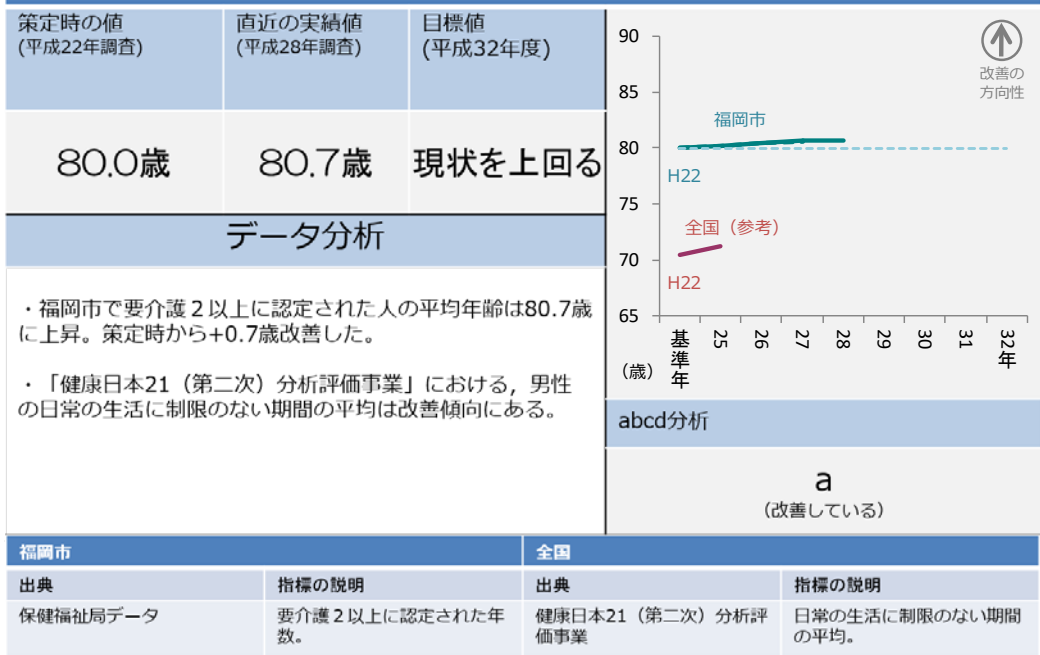
〇ロコモティブシンドロームは女性の要介護状態になる原因の約3割を占めることから、若い頃からの生活習慣の改善に取り組む必要がある。

5 高齢者の健康づくり

高齢者の健康づくり全体の指標

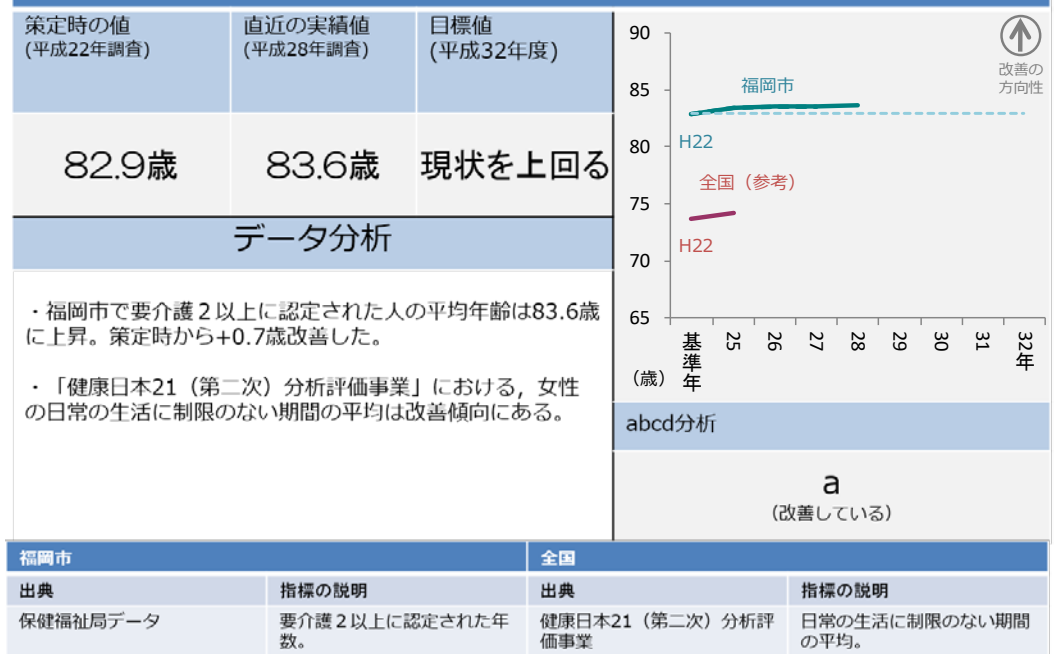


5 高齢者の健康づくり 高齢者の健康づくり全体の指標 健康寿命の延伸（要介護2以上に認定された年数）男性



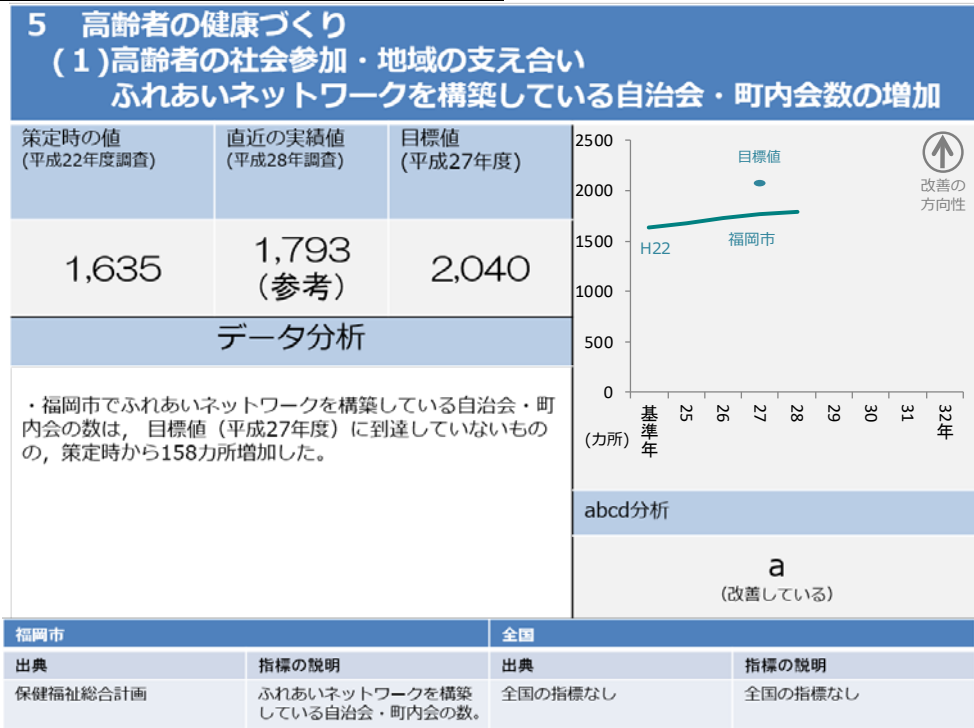
注)実線は実績値、点線は策定時の値

5 高齢者の健康づくり 高齢者の健康づくり全体の指標 健康寿命の延伸（要介護2以上に認定された年数）女性



注)実線は実績値、点線は策定時の値

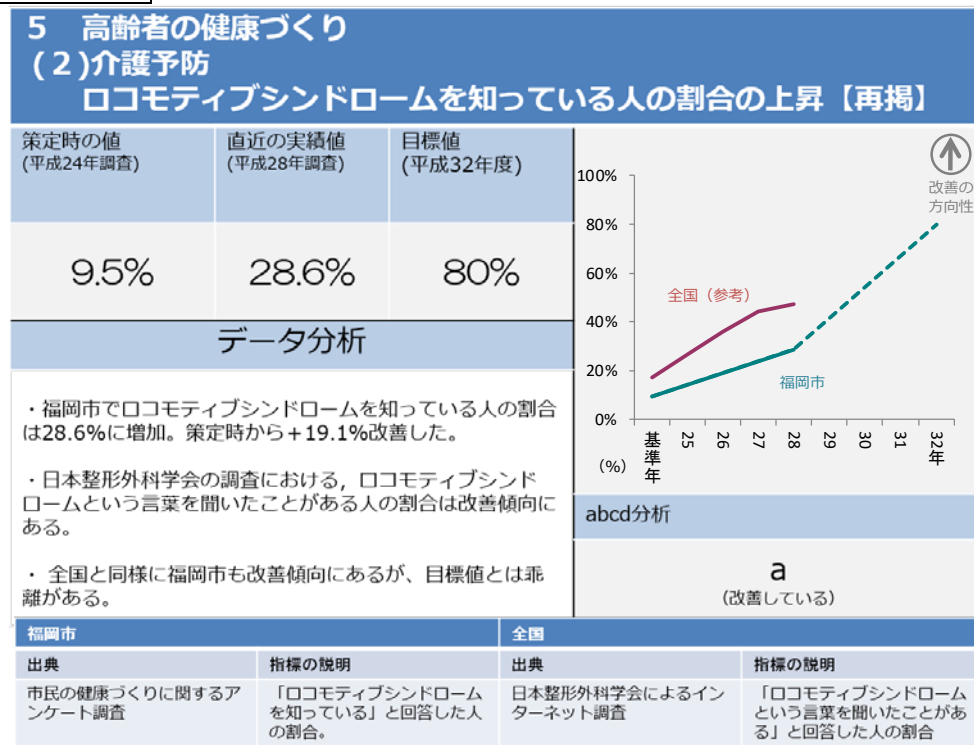
(1)高齢者の社会参加・地域の支え合い



【今後の課題】

○ふれあいネットワークやふれあいサロンなどの地域の支え合い活動は、新たな担い手の確保が課題であり、活動者の参加促進に向けた積極的な働きかけを行う必要がある。

(2)介護予防

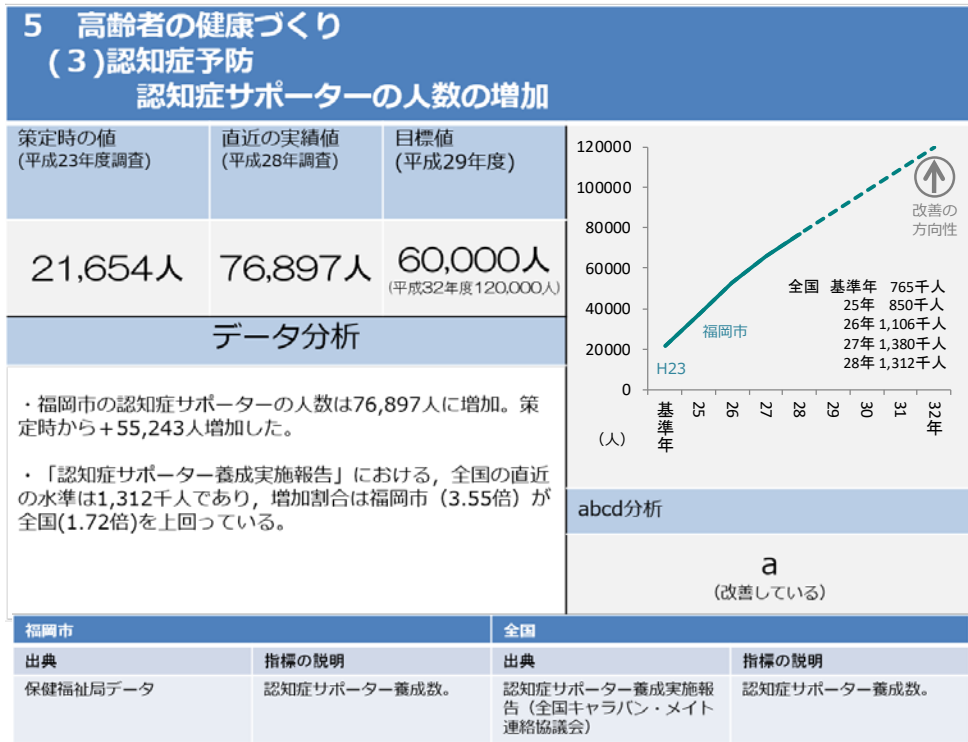


注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移

【今後の課題】

- 地域で介護予防推進の機運が高まり、地域が主体となって介護予防の通いの場が創出されるような働きかけが必要である。
- 地域とのつながりが少ない方や健康づくりの関心が低い方への働きかけや支援が必要である。

(3) 認知症予防



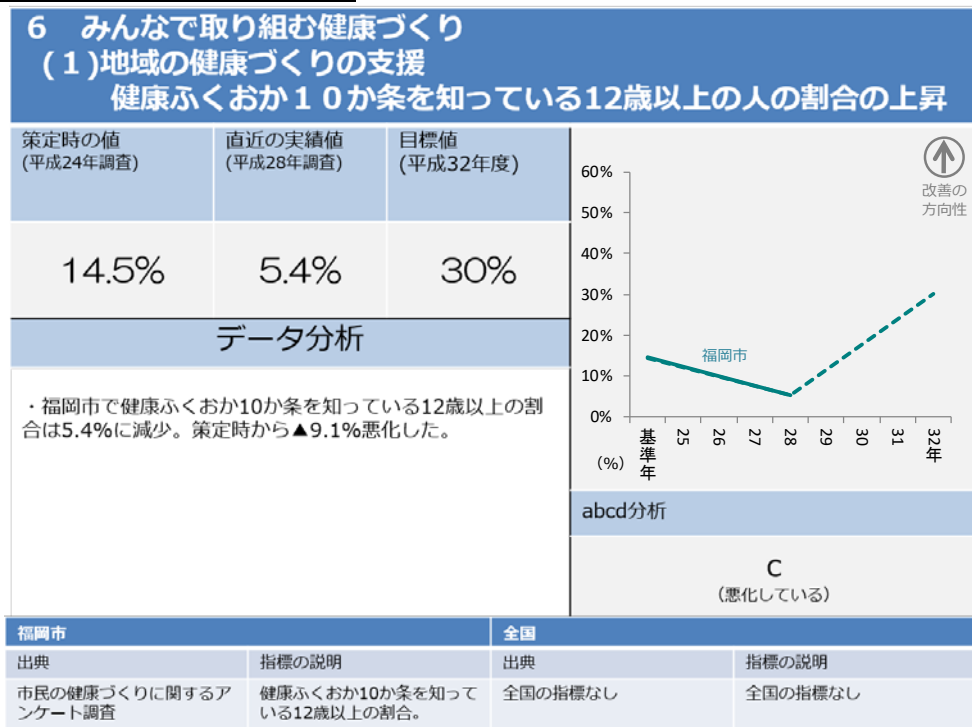
注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移

【今後の課題】

○認知症サポーターのスキルアップやサポーターが地域で活躍できる場の提供等を通じて、認知症の理解を深めるための普及・啓発活動を推進する必要がある。

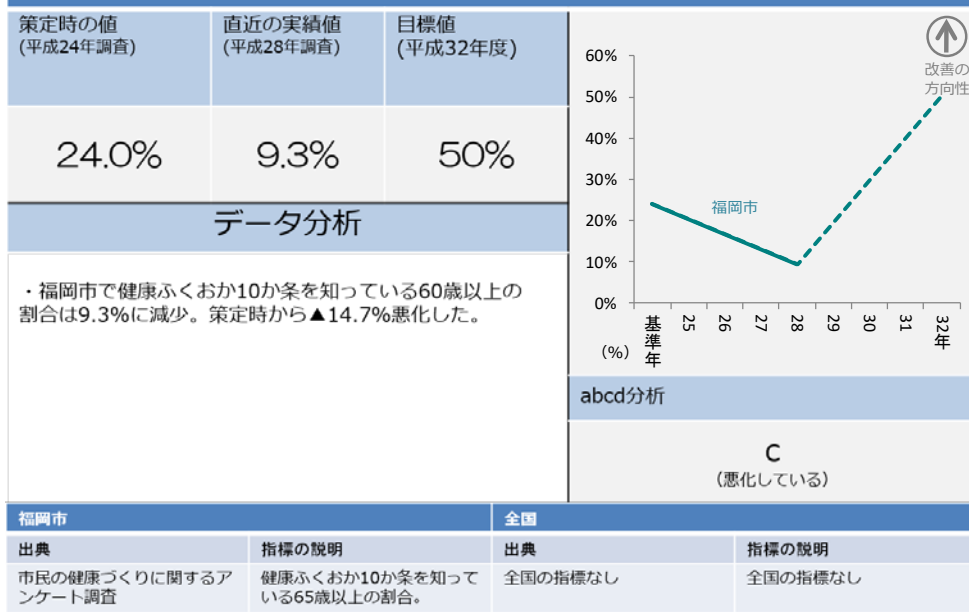
6 みんなで取り組む健康づくり

(1) 地域の健康づくりの支援



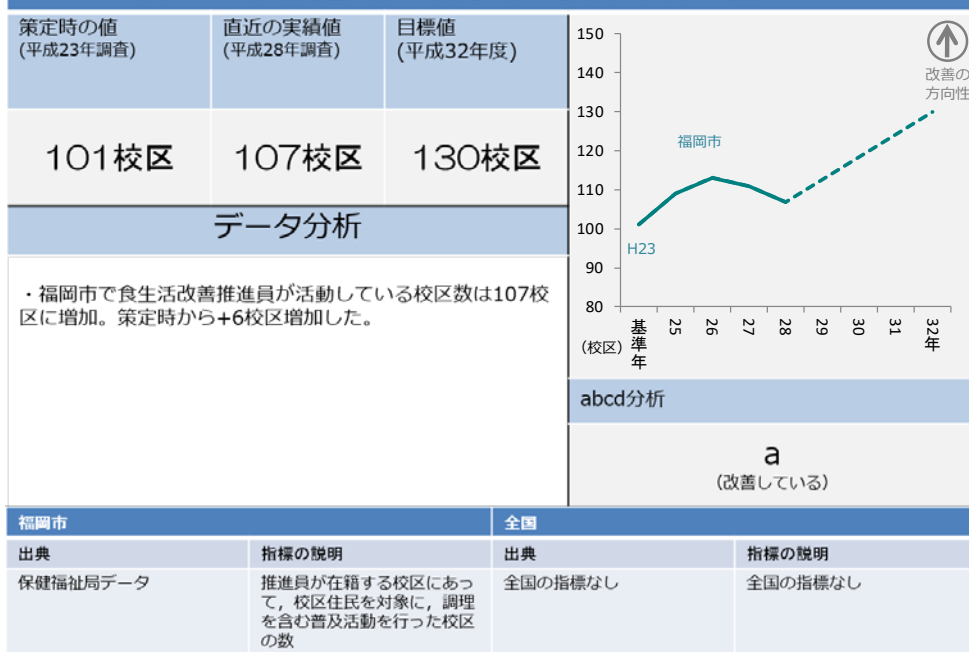
注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移

6 みんなで取り組む健康づくり (1)地域の健康づくりの支援 健康ふくおか10か条を知っている60歳以上の人の割合の上昇



注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移

6 みんなで取り組む健康づくり (1)地域の健康づくりの支援 食生活改善推進員が活動している校区数の増加

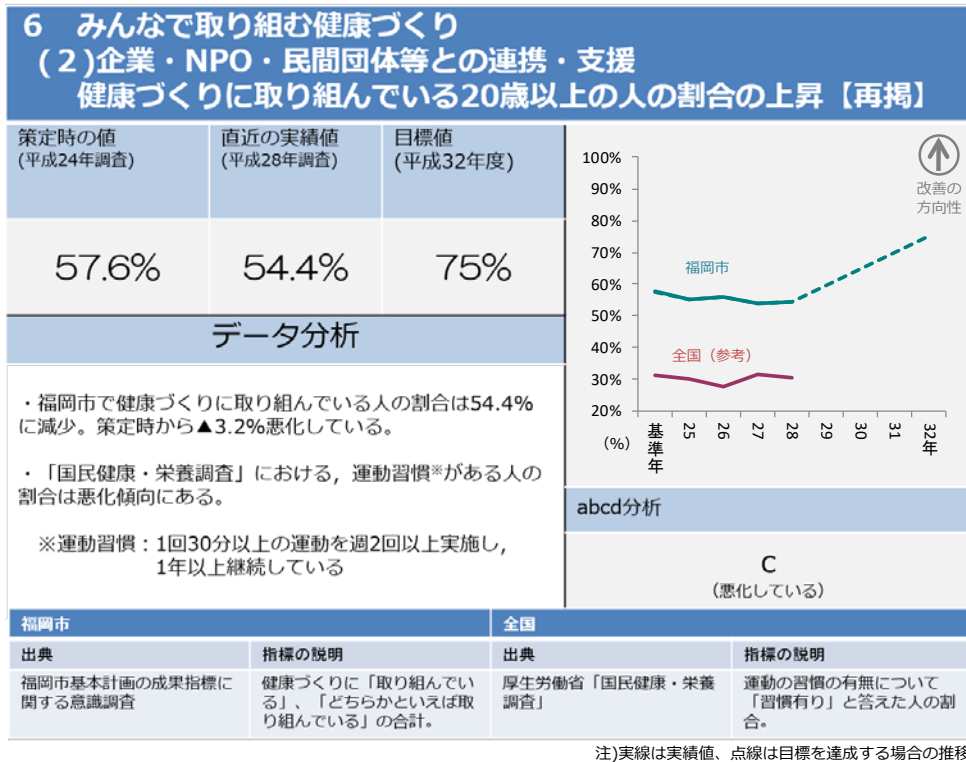


注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移

【今後の課題】

○健康ふくおか10か条の認知度は一貫して低下傾向にあるため、健康に関するイベントや告知媒体において健康ふくおか10か条を表示するなど、プロモーションの強化が必要である。

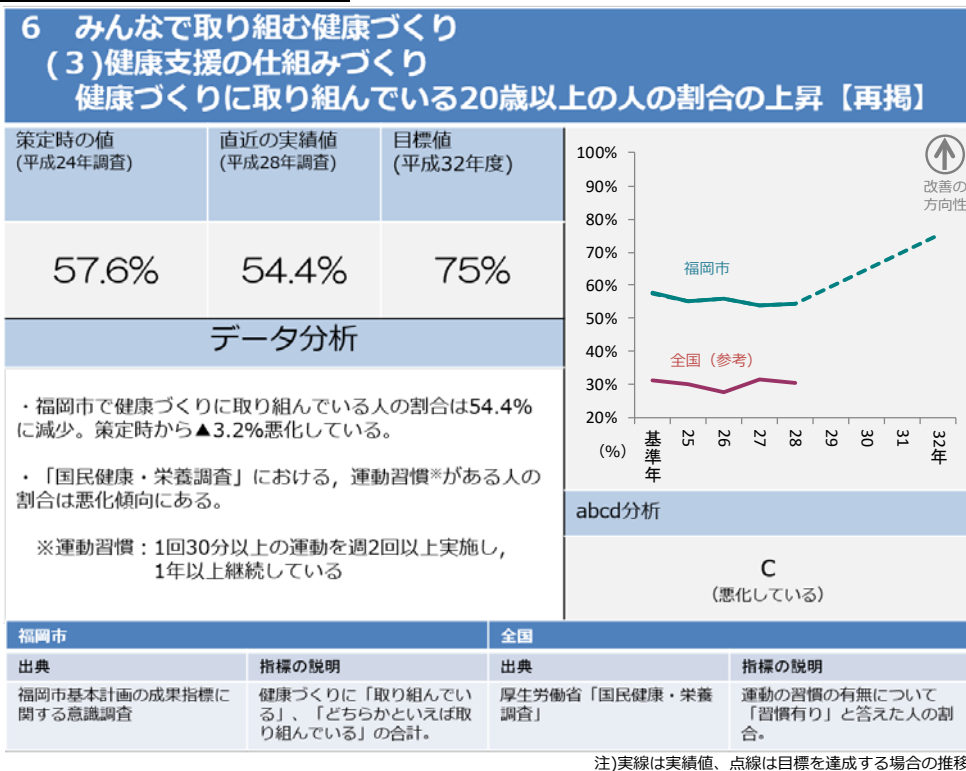
(2)企業・NPO・民間団体等との連携・支援



【今後の課題】

○企業・NPO・民間団体等からみた場合に、行政と連携することでメリットを感じられるような取り組みが必要である。

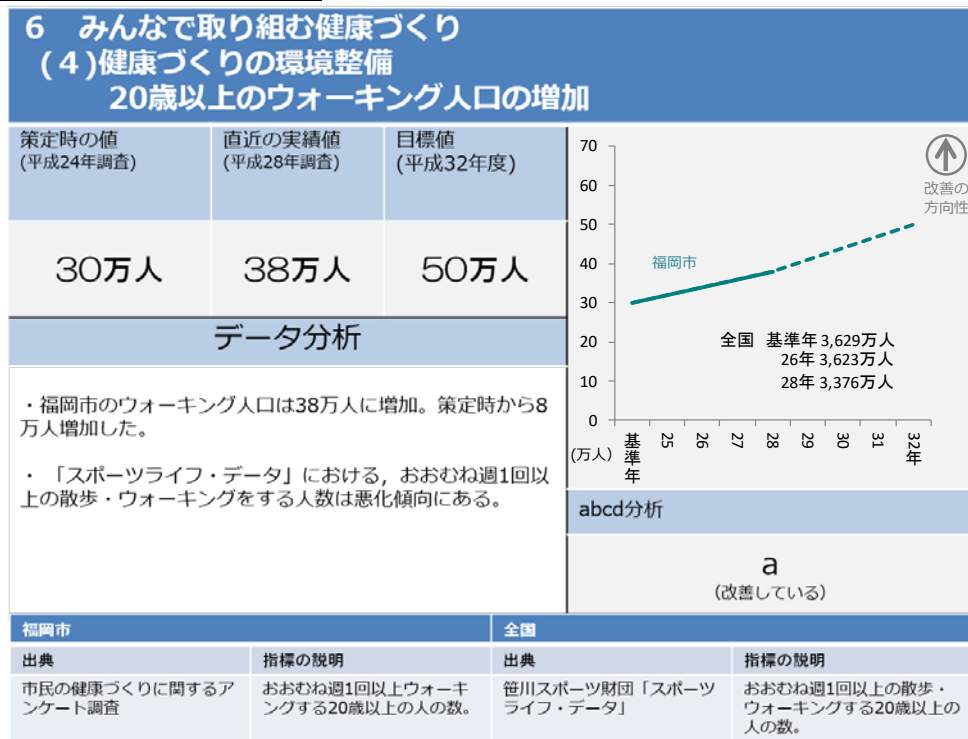
(3)健康支援の仕組みづくり



【今後の課題】

○健康づくりの関心が低い層（特に若い世代）に対し、健康づくりのきっかけとなる取り組みを積極的に推進する必要がある。

(4)健康づくりの環境整備



(注)実線は実績値、点線は目標を達成する場合の推移

【今後の課題】

○更なるウォーキングの普及のために、ウォーキング大会と他のイベントを組み合わせるなど、様々なテーマと結びつけたウォーキング大会の実施について検討する必要がある。